

科目名	統計学					担当教員	緒方 茂		
-----	-----	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習									
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活				選択・必修		必修											
担当教員の実務経験		臨床・教育の領域において、臨床研究および基礎研究によるさまざまな研究デザインに対する統計的手法を実践できることにより、将来臨床で必要な統計リテラシーの学習を行う事が出来る。																		
授業概要		医学系とくにリハビリ領域における研究にて用いられる統計学的手法について学ぶ。例題をもとに電卓や統計ソフトを使用した簡単な統計学的手法を実践する。また身近なデータから統計手法を選択し考察をえた推論ができるようになる。																		
到達目標		統計学の概要を大まかに捉えて、統計学の専門用語である正規分布や特性値、各統計的手法を理解できる。さらに例題を通して理解を深め簡単なデータにおける統計処理が出来るようになる。																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	統計学を学ぶ意義を理解する。
2	統計学の概念と歴史	統計学の概念と過去の歴史から統計学がどのように人類に恩恵をもたらしたか理解する。
3	データの種類と整理	各尺度の種類と特性を理解し、中央値・平均値・最大値・最小値・標準偏差などを理解する。
4	データ整理とヒストグラム作成	例題のデータからヒストグラムを作成し、さらに正規分布の特性を理解する。
5	名義尺度の変数に対する統計学的検定（1）	名義尺度の理解を深め、さらに名義尺度で使用する統計手法を覚える。
6	名義尺度の変数に対する統計学的検定（2）	名義尺度の例題データを使用し、統計手法の選択から使用までを身につける。
7	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（1）	間隔尺度・比率尺度の理解を深め、その統計手法が選択できるようにする。
8	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（2）	間隔尺度・比率尺度における統計手法を選択できる手順を例題データから演習を通して覚える。
9	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（3）	間隔尺度・比率尺度における統計手法を選択できる手順を例題データから演習を通して覚える。
10	順序尺度の変数に対する統計学的検定（1）	順序尺度の理解を深め、対応のあるデータで統計手法が選択でき結果まで出せるようにする。
11	順序尺度の変数に対する統計学的検定（2）	順序尺度の理解を深め、対応の無いデータで統計手法が選択でき結果まで出せるようにする。
12	順序尺度の変数に対する統計学的検定（3）	例題を通して統計手法を身につける
13	相関・回帰直線（1）	相関分析の概念とその流れを理解する。
14	相関・回帰直線（2）	例題を通して演習において相関分析・回帰分析を身につける。
15	まとめ	レポート及び定期試験のオリエンテーション

準備学習（予習復習）の具体的な内容	その日に学習したものを、教科書や資料を確認しながらしっかりと復習するように
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（70%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（30%） <input type="checkbox"/> 課題（%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）
教科書	対馬栄輝他『リハビリテーション統計学』中山書店
参考書	渡邊宗孝他『PT・OTのための統計学入門』、三輪書店 杉山高一他『保健・医療を学ぶ人のための統計学』絢文社 対馬栄輝『SPSSで学ぶ医療系データ解析』東京図書
授業の留意点・備考	・講義ではデータ処理にて数を扱うが、数字に対して苦手意識を持たず取り組むこと。 ・「なぜ、このような統計学的手法が必要なのか」という意識を持ちながら授業に臨むこと。

科目名	対人関係論						担当教員	山田 勝久					
学科	理学療法学科		年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習	
区分	基礎分野	教育内容		科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		精神保健福祉領域の対人援助実務に携わった経験をいかし、対人援助職として身につけておくべき基本的態度や知識について講義・演習を行う。											
授業概要		自分の感情・思考・行動パターンを知り、自己の心のパターンを知る。さらに、対人援助職として対象者との関係性を構築していくために求められる、援助的態度と対話のスキルを習得する。											
到達目標		1. 自身の自我状態を知る 2. 自身の思考・コミュニケーションパターンを知り、アサーティブな表現手段を習得する 3. 対人援助職として求められる基本的態度を習得する 4. 対人援助職として求められる対話の技術を習得する											
授業計画													
回	テーマ			授業内容									
1	オリエンテーション 自分の心を知る①			TEGを用いて学生自身の自我状態を理解する									
2	自分のコミュニケーションパターンを知る			交流分析の手法を用いて様々なコミュニケーションパターンを理解する									
3	自分の心を知る②			ストロークについて学ぶ。 OKグラムを用いて、自身の「基本的構え」を理解する									
4	自分の心を知る③			「自己認識ゲーム」を通して自己理解を深めることができる									
5	アサーションと自己表現			自己主張のパターンを理解し、アサーティブな自己主張について学ぶ									
6	「怒り」の扱い方			「怒り」の構造を理解し、怒りを上手に表現する方法を学ぶ									
7	グループワーク			グループワークを通して、建設的な自己主張のあり方を演習する									
8	援助的態度について			対人援助職として求められる基本的態度（傾聴）を学ぶ									
9	援助的態度について			対人援助職として求められる基本的態度（共感）を学ぶ									
10	援助的態度について			対人援助職として求められる基本的態度（受容・一致）を学ぶ									
11	対話について			対話の意義を理解し、様々な対話の技法を学ぶ									
12	ダイアローグ実践①			リフレクティングの基本的な考え方について学ぶ									
13	ダイアローグ実践②			リフレクティングの技法を用いた対話を演習する									
14	ダイアローグ実践③			リフレクティングの技法を用いた対話を演習する									
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める									
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業内容を振り返り、理解するための自己学習に努めること。											
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (10 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書		立石雅子他（著），内山靖他（編）：リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論、医歯薬出版、2021.											
参考書		なし ※教員が資料を準備します											
授業の留意点・備考		グループワークなど参加型の授業の場合は、積極的に討議に参加すること。											

科目名	総合教育Ⅱ/キャリアワーク						担当教員	越地 真一郎				
学科	理学作業言語聴覚療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義	
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		新聞社での取材記者やNIE（新聞活用講座）を長年にわたり経験。										
授業概要		どんな進路（職種）にも必要とされるのが社会人基礎力。その中でも「読む、書く、話す」のコミュニケーション能力の育成に重点を置く。										
到達目標		実社会につながる基本スキルとして、次の「知る」「考える」「伝える」の3つの力を磨く。 ①世の中や身の回りで何が起きているかを「知る」 ②その背景や課題、自分の意見・提言を「考える」 ③考えたことを他人に分かるように「伝える」										
授業計画												
回	テーマ（順不同）			授業内容（順不同）								
1	「伝える」から「伝わる」へ			相手に「伝わる」表現方法とは								
2	世の中を知る			ニュース穴埋めクイズ+コメント								
3	答えは一つじゃない			「正解のない問い合わせ」にどう答えるか								
4	シンポン（新聞×本）バトル			新聞と本を組み合わせたプレゼンイベント。図書館に親しむ契機に								
5	要約のワザ			言いたいことは何か～要点をつかむコツ								
6	結論ファースト			結論を先に示し、理由・根拠を後で述べる「先結後各」の表現法								
7	見出し川柳			新聞記事の見出しを組み合わせた川柳づくり。言葉に親しむ								
8	メディアリテラシー			メディアの特性を知り、自らの視点で情報を読み解く								
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
準備学習（予習復習）の具体的な内容		日頃からニュース（世の中のいろいろな出来事）に関心を持つこと。										
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験 () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (50 %) <input type="checkbox"/> レポート () % <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (50 %) <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 ()										
教科書												
参考書												
授業の留意点・備考		主な教材として新聞記事を活用。ワークショップ中心の参加型授業を行う。自分の意見を人前ではっきりと述べる力をつける。										

科目名	国際コミュニケーション/英語Ⅱ						担当教員	ショウナ・エッシャー				
学科	理学作業言語聴覚療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義	
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		2006年4月からメディカルカレッジ青照館英会話非常勤講師を勤め、現在に至る										
授業概要		*グループ分けして、ボキャブラリーマスター *ウォーミングアップとしてボディランゲージ &アイコンタクトによる会話 *会話カードを作り、評価チェックする										
到達目標		*英語によるコミュニケーションを楽しく学ぶ *会話パートナーとの信頼、相互関係助け合いを形成する *英会話に対し、前向きで意欲的姿勢を形成する										
授業計画												
回	テーマ			授業内容								
1	Introductions: Tell about yourself Find out about others			自分のこと、相手のことなどをどのようにたずねるか 会話カード#1の作成								
2	Family and Relatives			家族、親戚のことについて述べたり尋ねたりする表現 会話カード#2の作成								
3	Shopping/Money/Numbers			買い物、お金、様々な数に関する会話の指導 会話カード#3の作成								
4	Food. Eating. Restaurants			食に関する英会話全般の指導 会話カード#4の作成								
5	Music. Concerts			音楽に関する様々な表現等の指導 会話カード#5の作成								
6	Theme#1-#5 Mixed practice & bonus games			テーマ#1～#5の復習&コミュニケーションゲームの実施								
7	Review Test #1-#5			テーマ#1～#5の復習テストの実施								
8	Free Time Activities			様々なアクティビティに関する表現等の指導 会話カード#6の作成								
9	Great Holiday Plans. Travel			休暇、旅行の計画、実行に関する様々な表現の指導 会話カード#7の作成								
10	Sports and Recreation			スポーツ、レクリエーションに関する表現の指導 会話カード#8の作成								
11	Friends & Feelings			友人や感情に関する表現の指導 会話カード#9の作成								
12	Part-time Jobs & Working			アルバイト、仕事に関する表現の指導 会話カード#10の作成								
13	Catch up chance for unfinished missed work.			テーマ#1～#10のキャッチアップ								
14	Theme#6-#10 Mixed practice & bonus games			テーマ#6～#10の復習とコミュニケーションゲームの実施								
15	Review Test #6-#10			テーマ#6～#10の復習テストの実施								
準備予習(予習復習)		毎回、各テーマ#ごとの重要ワード、フレーズの小テストの作成 復習テストの作成										
具体的な内容												
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (40 %) <input type="checkbox"/> レポート ()										
		<input type="checkbox"/> 課題 () <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (10 %) <input type="checkbox"/> その他 ()										
教科書		Tools for Increasing Proficiency in Speaking: ウエルオン										
参考書												
授業の留意点・備考		各テーマごとに使う単語、フレーズを使い、コミュニケーション出来るように、生徒に楽しく指導する										

科目名	解剖学II					担当教員	山本 英夫		
-----	-------	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義										
区分	専門基礎分野	教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達				選択・必修		必修											
担当教員の実務経験	総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし講義を行う。																				
授業概要	人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学IIでは筋学を学習する。筋は能動的運動器と称され、骨と筋とがヒトの動きを作り出している。特に療法士にとって運動器の理解は不可欠となるため、それについて系統的に学習していく。																				
到達目標	骨格筋の構造と機能を理解する。各筋の付着部（起始・停止）、神経支配を覚え、その作用を理解する。																				

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 筋学総論①	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、筋に関する構造、組織について学習する。
2	筋学総論②	骨格筋の付着部（起始、停止）と作用について学習する。
3	神経系①	骨格筋と運動に関係する脳及び脊髄の構造を学ぶ。骨格筋の神経支配について学習する。
4	神経系②	脊髄神経と上肢の筋に分布する腕神経叢について学習する。
5	神経系③	脊髄神経と下肢の筋に分布する腰神経叢、仙骨神経叢について学習する。
6	筋学各論 上肢の筋①	上肢帯（肩甲帯）の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。
7	筋学各論 上肢の筋②	上腕にある屈筋、伸筋の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。
8	筋学各論 上肢の筋③	前腕にある屈筋群、伸筋群の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。
9	筋学各論 上肢の筋④	手の内在筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。
10	筋学各論 下肢の筋①	股関節周囲にある筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。
11	筋学各論 下肢の筋②	大腿部にある伸筋群、内転筋群、屈筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。
12	筋学各論 下肢の筋③	下腿部、足部にある背屈筋群と底屈筋群、腓骨筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。
13	筋学各論 体幹の筋①	頭部、頸部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。
14	筋学各論 体幹の筋②	胸部、腹部、背部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。
15	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。

準備学習（予習復習）の具体的な内容	毎回小テストで確認していくため、各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (40 %) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) プロメテウス解剖学アトラス (医学書院)
参考書	なし
授業の留意点・備考	各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	呼吸とガスの運搬④	化学受容器と呼吸の調節を学ぶ
17	消化と吸収①	消化管の構造と消化メカニズムを学ぶ
18	消化と吸収②	消化液・栄養の吸収を学ぶ
19	消化と吸収③	消化管ホルモン、消化管の調節を学ぶ
20	消化と吸収④	肝臓、脾臓の構造と役割を学ぶ
21	腎臓と排泄①	腎臓の構造と役割を学ぶ
22	腎臓と排泄②	尿の生成メカニズムを学ぶ
23	腎臓と排泄③	クリアランス、糸球体濾過量、腎血漿流量を学ぶ
24	腎臓と排泄④	畜尿反射と排尿反射を学ぶ
25	酸塩基平衡①	血漿pH調節について学ぶ
26	酸塩基平衡②	アシドーシスとアルカローシスについて学ぶ
27	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
28	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
29	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
30	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。	
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input type="checkbox"/> 課題（%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）	
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版：医学書院	
参考書	消っして忘れない 生理学要点整理ノート（P.T.O.T必修シリーズ） 羊土社	
授業の留意点・備考	授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれる所以、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。	

科目名	生理学Ⅱ						担当教員	中西 宏之		
-----	------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学作業言語聴覚療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義								
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験		医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに看護学科での解剖学、生理学の講義に係わった経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。																	
授業概要		生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。																	
到達目標		生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法・言語聴覚療法と関連を説明できる。																	

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	内分泌①	ホルモンの作用、種類、発現メカニズムを学ぶ
2	内分泌②	ホルモンの分泌調節を学ぶ
3	内分泌③	下垂体・視床下部・甲状腺・副甲状腺のホルモンを学ぶ
4	内分泌④	副腎皮質・髓質・胰臓・性腺などのホルモンを学ぶ
5	筋と骨①	骨格筋の構造と機能を学ぶ
6	筋と骨②	骨格筋の収縮メカニズムを学ぶ
7	筋と骨③	筋紡錘・ゴルジ腱器官を学ぶ
8	筋と骨④	心筋・平滑筋と骨について学ぶ
9	神経系①	神経細胞の構造を学ぶ
10	神経系②	興奮の発生と伝導を学ぶ
11	神経系③	神経線維の種類を学ぶ
12	神経系④	シナプスについて学ぶ
13	末梢神経①	末梢神経の分類について学ぶ
14	末梢神経②	脳神経・脊髄神経を学ぶ
15	末梢神経③	交感神経・副交感神経を学ぶ

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	末梢神経④	神経伝達物質について学ぶ
17	中枢神経①	脊髄の構造と機能を学ぶ
18	中枢神経②	脊髄反射を学ぶ
19	中枢神経③	延髓・橋・中脳・視床・視床下部・小脳の構造と機能を学ぶ
20	中枢神経④	大脳皮質、睡眠、脳脊髄液、血液脳関門について学ぶ
21	感覚①	体性感覚、内臓感覚を学ぶ
22	感覚②	聴覚・平衡感覚を学ぶ
23	感覚③	視覚について学ぶ
24	感覚④	嗅覚・味覚について学ぶ
25	代謝と体温①	各栄養素の意義と代謝を学ぶ
26	代謝と体温②	体温の調節と発熱メカニズムを学ぶ
27	運動生理①	筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源を学ぶ
28	運動生理②	運動に伴う全身の変化、トレーニングと老化について学ぶ
29	後期復習①	小テストを利用して後期の復習を行う
30	後期復習②	小テストを利用して後期の復習を行う
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input type="checkbox"/> 課題（%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版：医学書院
参考書		消して忘れない 生理学要点整理ノート（P.T.O.T必修シリーズ） 羊土社
授業の留意点・備考		授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれる所以、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。

科目名	生理学演習						担当教員	緒方 茂 OT教員					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習	
区分	専門基礎分野	教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		患者の症状を生理学的側面から捉えるため、研修や大学院等で基礎的な生理現象の理解に努めてきた。											
授業概要		1年次で学んだ生理学の知識を基礎とし、様々な環境に呼応する生体兆候の変化を主要なテーマとし、計測、結果の分析・解釈を行いレポートを作成する。内容の理解を確認するため演習問題を実施する。卒業研究の基礎のひとつとなる。臨床実習で求められる技術も含まれる。											
到達目標		生理学の主要なテーマについて、実際に検査・測定することで理解を深める。 人の体と心を意識して、被験者の気持ちを理解し、人と接する態度を向上させる。 治療に役立つ生理学的データを得るための、科学的方法の基礎を身につける。 得た知見をレポートとして他の人に伝える能力を養う。											
授業計画													
回	テーマ			授業内容									
1	オリエンテーション 体温調節			体温調節の生理学									
2	体温調節			体温調整の生理学									
3	体温調節			体温調節の生理学									
4	身体組成			身体組成モデルと基本的な身体計測額の指標									
5	身体組成			身体組成指標とその測定方法									
6	身体組成			身体組成計測									
7	血圧測定			血圧の原理と取り扱い方									
8	血圧測定			血圧の原理と取り扱い方									
9	血圧測定			運動負荷前後の血圧の変化									
10	血圧測定			運動負荷前後の血圧の変化									
11	エルゴメーターによる体力測定			体力とは 体力の種類について									
12	エルゴメーターによる体力測定			最大酸素摂取量とは									
13	エルゴメーターによる体力測定			体力測定									
14	エルゴメーターによる体力測定			体力測定									
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める									
準備学習（予習復習）の具体的な内容		予習は教科書に軽く目を通しておき、講義の資料および個人の学習ノートを用いて復習を行なう。											
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (90 %) <input type="checkbox"/> 課題 (10 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書		特に無し											
参考書		入門運動生理学 基礎運動学第6版補訂 その他、図書室生理学教科書を参照											
授業の留意点・備考		1年次の生理・解剖・運動学を再度学習するつもりで、さらに理解を深めていく。											

科目名	運動学					担当教員	山本 英夫		
-----	-----	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義								
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし講義を行う。																	
授業概要		本授業では、人体の構造と機能及び心身の発達を理解するために、運動学の基礎となる力やてこなどの生体力学や、関節の基本構造、筋の収縮の様式や関係する神経機能について学習する。また、上肢、下肢、体幹の各関節の特徴と機能、運動について学習する。																	
到達目標		身体の関節の特徴的な構造と機能を説明できる。また、関節の動きや筋の作用、靭帯やその他器官の機能を理解しイメージできる。また、それを各関節のみでなく人の全身の動きの中で理解し他に説明することができる。																	

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	運動学とは何か。
2	生体力学の基礎①	運動と力について学習する。力の概念、重心、力のモーメント、てこについて学習し力学的基礎を身につける。
3	生体力学の基礎②	運動と力について学習する。力の概念、重心、力のモーメント、てこについて学習し力学的基礎を身につける。
4	生体力学の基礎③	運動と力について学習する。力の概念、重心、力のモーメント、てこについて学習し力学的基礎を身につける。
5	運動器の構造と機能①	骨、関節、筋の構造と機能について学習する。
6	運動器の構造と機能②	基本の肢位と面、運動の名称について学習する。
7	神経系の構造と機能	運動に関係する神経系の機能について学習する。
8	肩甲帶・肩関節の運動学①	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
9	肩甲帶・肩関節の運動学②	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
10	肩甲帶・肩関節の運動学③	肩の運動に関係する筋の働きについて学習する。
11	肘関節の運動学	肘（腕尺関節、腕橈関節、上腕尺関節）を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
12	前腕の運動学①	前腕（上橈尺関節、下橈尺関節）を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
13	前腕の運動学②	肘関節、前腕の運動に関係する筋の働きについて学習する。
14	手指の運動学①	手と手指を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
15	手指の運動学②	母指の運動について学習する。手指屈筋、伸筋機構について学習する。手関節、母指、手指の運動に関係する筋の働きについて学習する。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	股関節の運動学①	股関節を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
17	股関節の運動学②	股関節を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
18	膝関節の運動学①	膝関節を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
19	膝関節の運動学②	膝関節を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
20	股・膝関節の筋	股・膝の運動に関係する筋の働きについて学習する。
21	足関節および足部の運動学①	足関節および足部を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
22	足関節および足部の運動学②	足関節および足部を構成している骨、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
23	足関節および足部の筋	足関節および足部の運動に関係する筋の働きについて学習する。
24	脊柱の運動学①	脊柱を構成している椎間板、靭帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
25	脊柱の運動学②	頸椎の構造と、その特徴や機能を学習する。
26	脊柱の運動学③	胸椎、腰椎の構造と、その特徴や機能を学習する。呼吸運動について学習する。
27	脊柱の運動学④	脊柱の運動に関係する脊柱起立筋や腹筋などについて学習する。
28	姿勢	姿勢とは、立位姿勢とアライメント、重心、姿勢調整について学習する。
29	姿勢	姿勢とは、立位姿勢とアライメント、重心、姿勢調整について学習する。
30	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習）の具体的な内容	毎回小テストで確認していくため、各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。	
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (40 %) <input type="checkbox"/> レポート ()	
課題	<input type="checkbox"/> 課題 () <input type="checkbox"/> 発表 () <input type="checkbox"/> その他 ()	
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学（医学書院）	
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系（医学書院） 基礎運動学（医歯薬出版）	
授業の留意点・備考	各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。	

科目名	臨床運動学						担当教員	栗野 博子					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習	
区分	専門基礎分野	教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		運動に対する身体機能の反応と変化を急性期医療から回復期医療において様々な疾患におけるリハビリテーションに携わり経験してきたことを基に講義・演習を行う。											
授業概要		解剖学や生理学、運動学の知識を統合し、ヒトの動きの基礎を学ぶ。姿勢、基本動作、歩行を中心に正常（健常）の動作の基礎となる用語、機能的役割、原理を理解し、異常な現象や動作の要因となりうるところを推測できるようになるための基盤を習得する。											
到達目標		姿勢、基本動作、歩行などのヒトの正常（健常）な動作を理解する。 正常のヒトの姿勢や動作についての国家試験を解釈できるようになる。 姿勢における重心位置や姿勢制御について説明することができる。 基本動作における正常パターンについて説明することができる。											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	臨床運動学 総論				基本的動作に関する運動力学の基礎を学び理解する。								
2	姿勢①				姿勢制御のバイオメカニクスを学び理解する。								
3	姿勢② ~演習~				姿勢制御のバイオメカニクスを学び姿勢の異常や基本的動作との関連・評価について理解する。								
4	寝返り				寝返り動作における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。								
5	起き上がり				起き上がり動作における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。								
6	寝返り・起き上がり ~演習~				寝返り・起き上がり動作の様々なパターンを実際に観察し理解する。								
7	起立・着座				起立・着座動作における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。								
8	起立・着座 ~演習~				起立・着座動作の様々なパターンを実際に観察し理解する。								
9	歩行① ~正常歩行の運動学と歩行周期~				正常歩行における運動パターンの概要と、動作を可能にするメカニズムを学び、正常動作を理解する。								
10	歩行② ~正常歩行の運動学的分析~				正常歩行における重心のコントロールと各関節運動との関係について理解する。								
11	歩行③ ~正常歩行の運動力学的分析~				正常歩行の動きを生じさせる要因である力について学び理解する。								
12	歩行④ ~様々な正常歩行~				小児・成人・高齢者の歩行の特徴について学び違いなどを理解する。								
13	歩行⑤ ~異常歩行~				運動器疾患、神経筋疾患などによくみられる主な異常歩行について、その特徴や名称、原因などを学び理解する。								
14	歩行⑥ ~演習~				正常歩行について観察・計測などの演習を行う。								
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める								
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1年次に学習した解剖・運動学を復習すること。											
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10 %) <input type="checkbox"/> レポート () %											
教科書		随時資料配布、基礎運動学 第6版補訂：医歯薬出版株式会社 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実際：MEDICAL VIEW 観察による歩行分析：医学書院											
参考書		プロメテウス解剖アトラス 解剖総論運動器系 第3版：医学書院、動作のメカニズムがよくわかる 實践！動作分析：医歯薬出版株式会社、日常生活活動の分析-身体運動学的アプローチ：医歯薬出版株式会社											
授業の留意点・備考		動作観察および分析を行い、動画を撮影できるものを準備する。使用する際は事前に準備の連絡を行う。 演習を行う際は、軽装の準備をすること。											

科目名	人間発達学						担当教員	小野 厚美					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義	
区分	専門基礎分野	教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		臨床作業療法に携わった経験を活かし、リハビリテーションにおいて理解すべき小児の運動発達について講義・指導ができる											
授 業 概 要		小児の運動発達の基盤となる発達概念、発達理論を理解し、姿勢反射、反応から始まる正常な運動発達を時期とともに段階的に学ぶ。											
到 達 目 標		正常な小児の運動発達を学習し、どのような順番で運動を獲得していくのかを説明できる。											
授 業 計 画													
回	テーマ				授 業 内 容								
1	オリエンテーション				映像をみながら小児の運動発達のイメージを作る。								
2	発達概念				人間発達を表現する用語や発達の流れを学ぶ。								
3	人間発達（発達理論）				発達理論モデルを理解する。								
4	姿勢反射・反応①				姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。								
5	姿勢反射・反応②				姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。								
6	運動発達（0～3ヶ月）				0～3ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。								
7	運動発達（4～6ヶ月）				4～6ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。								
8	運動発達（7～9ヶ月）				7～9ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。								
9	運動発達（10～12ヶ月）				10～12ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。								
10	運動発達（13～18ヶ月）				13～18ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。								
11	上肢機能の発達				上肢機能と物の操作の発達を学ぶ。								
12	ADLの発達①				遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。								
13	ADLの発達②				遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。								
14	感覚・知覚・認知・社会性の発達				感覚・知覚・認知・社会性の大まかな発達を学ぶ。								
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める								
準備学習（予習復習）の具体的な内容		1コマごとに小テスト、課題プリントを出すので、授業の復習をしながら毎回の課題に取り組むこと。											
成 績 評 価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20 %) <input type="checkbox"/> レポート () % <input type="checkbox"/> 課題 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 ()											
教 科 書		イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版株式会社											
参 考 書													
授業の留意点・備考													

科目名	運動生理学					担当教員	緒方 茂		
-----	-------	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義							
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修	必修									
担当教員の実務経験		地域リハビリテーションにおける介護予防事業において、地域高齢者への転倒予防教室や介護予防体操などの経験から、運動が及ぼす身体への影響や実際の運動への取り組み方について講義を行う事が出来る。																
授業概要		近年死因の第1位は、悪性新生物だが、それ以降の死因は、生活習慣病（動脈硬化性疾患）が主である。この生活習慣病に対して運動処方に基く身体運動は推奨される手段の一つであるが誤った方法は、身体に不利益をもたらす可能性がある。本科目は、運動処方の基礎理論を深め、運動による身体反応（運動生理学）を理解し、各疾患の運動療法へ繋げる。																
到達目標		運動に対する身体器官（筋・神経・循環・代謝・呼吸）の反応と変化を理解し、運動により身体が受ける影響を説明できるようになる。																

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方や受講時の注意点を理解する。
2	筋の運動生理学①	筋収縮とエネルギー供給系について学ぶ
3	筋の運動生理学②	筋線維の種類とその特徴について考える。
4	筋の運動生理学③	筋収縮における神経の役割と収縮様式と筋力の関係について学ぶ。
5	換気の運動生理学①	呼吸器系の構造と換気メカニクスについて学ぶ
6	換気の運動生理学②	呼吸筋疲労および呼吸中枢と呼吸調整について学ぶ
7	ガス交換の運動生理学①	ガス交換と呼吸代謝について理解する
8	ガス交換の運動生理学②	呼吸代謝の指標と運動時の呼吸循環応答について学ぶ
9	循環の運動生理学①	循環系の構造と心周期について考える
10	循環の運動生理学②	一回拍出量・心拍数・心拍出量および心血管の機能的特性について学ぶ
11	循環の運動生理学③	心血管の自律神経系の調節と血圧について学ぶ
12	循環の運動生理学④	受直と運動による循環応答と最大酸素摂取量への影響因子を理解する。
13	体温・栄養・内分泌の運動への関わり	外部環境及び運動と体温調節について学ぶ
14	身体組成とトレーニング効果①	基本的な身体計測的指標とその測定方法について学ぶ
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	予習は教科書に軽く目を通しておき、講義の資料および個人の学習ノートを用いて復習を行なう。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (10 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	リハビリテーション運動生理学
参考書	入門運動生理学 基礎運動学第6版補訂 その他、図書室生理学教科書を参照
授業の留意点・備考	1年次の生理・解剖・運動学を再度学習するつもりで、さらに理解を深めていく。

科目名	基礎医学特論演習						担当教員	理学療法学科教員								
学科	理学療法学科		年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	60						
区分	専門基礎分野	教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達				選択・必修	必修							
担当教員の実務経験		理学療法に関係する修士および博士課程での学習経験から、専門基礎分野における国家試験問題対策を教授する。														
授業概要		国家試験対策として自己学習、ペアでの学習、グループでの学習、特別講義、模擬試験等を行なう。学習状況や理解度を確認しながら炊事検討を図り、妥当な時期や実施の必要性を見極めながら取り入れていく。														
到達目標		理学療法士国家試験における専門基礎分野における知識を理解する。														
授業計画																
回	テーマ				授業内容											
1	オリエンテーション				近年の国家試験における専門基礎分野の出題傾向を説明する。											
2	専門基礎（共通）分野 [1]				中枢神経（脳・脊髄）について学習する。											
3	専門基礎（共通）分野 [2]				脳神経・末梢神経について学習する。											
4	専門基礎（共通）分野 [3]				脳血管・循環器系について学習する。											
5	専門基礎（共通）分野 [4]				内臓諸器官について学習する。											
6	専門基礎（共通）分野 [5]				骨・関節について学習する。											
7	専門基礎（共通）分野 [6]				神経筋支配、筋・韌帯、発声と組織について学習する。											
8	専門基礎（共通）分野 [7]				代謝、血液について学習する。											
9	専門基礎（共通）分野 [8]				免疫、循環について学習する。											
10	専門基礎（共通）分野 [9]				呼吸、消化と排泄について学習する。											
11	模擬試験				これまでの専門基礎分野のまとめおよび習得内容の確認											
12	専門基礎（共通）分野 [10]				内分泌、女性の生理・妊娠・出産について学習する。											
13	専門基礎（共通）分野 [11]				神経系および感覚と受容器、病理について学習する。											
14	専門基礎（共通）分野 [12]				顔面および頸部・体幹の運動学について学習する。											
15	専門基礎（共通）分野 [13]				上・下肢の運動学について学習する。											

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	専門基礎（共通）分野 [14]	姿勢および歩行について学習する。
17	専門基礎（共通）分野 [15]	バイオメカニクス、椅子からの立ち上がり、筋の収縮様式、運動学習について学習する。
18	専門基礎（共通）分野 [16]	小児疾患および小児の運動発達について学習する。
19	専門基礎（共通）分野 [17]	呼吸器疾患・循環器疾患について学習する。
20	専門基礎（共通）分野 [18]	消化器疾患、代謝内分泌疾患について学習する。
21	模擬試験	これまでの専門基礎分野のまとめおよび習得内容の確認
22	専門基礎（共通）分野 [20]	高次脳機能障害、脳・神経の病態生理を学習する。
23	専門基礎（共通）分野 [21]	脳血管障害、認知症、自己免疫疾患、筋疾患を学習する。
24	専門基礎（共通）分野 [22]	防衛機制、移転記憶、発達心理、心理テスト、統合失調症、気分障害、薬物療法について学習する。
25	専門基礎（共通）分野 [23]	神経症性障害、小児の精神医学、転換、パーソナリティ障害について学習する。
26	専門基礎（共通）分野 [24]	骨折、脱臼について学習する。
27	専門基礎（共通）分野 [25]	末梢神経障害、脊髄・脊椎疾患及び損傷について学習する。
28	専門基礎（共通）分野 [26]	変形性関節症、小児整形外科、切断について学習する。
29	専門基礎（共通）分野 [27]	リハビリテーション概論、リスク管理感染症について学習する。
30	模擬試験	これまでの専門基礎分野のまとめおよび習得内容の確認
準備学習（予習復習）の具体的な内容	日々の国家試験過去問やリハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。	
成績評価	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (100 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()	
教科書	・クエスチョンバンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2023共通問題 ・TRY過去問 専門基礎分野	
参考書	その他、専門基礎分野に関連する教科書	
授業の留意点・備考	グループ（活動班）による学習を通して、国家試験合格率の向上に努める。	

科目名	病理学					担当教員	熊本大学大学院		
-----	-----	--	--	--	--	------	---------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義						
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修	必修								
担当教員の実務経験	病理疾患の研究に携わった経験を講義に活用する。																
授業概要	適切なリハビリテーションを実践するためには、疾病についての基礎的な知識を修得している必要がある。本講義では、疾病についての基礎的な知識や病態生理を教授し、さらに病理学の魅力についても伝えたい。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 専門科目の学習に必要最低限の病理学的知識と、生涯学習の方法を修得すること。 疾病的基礎的な概念を理解している。 主な疾病的病態生理について説明できる。 問題解決型の学習法を修得している。 																

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 病因論：先天異常	病理学の概要、病因論（外因性疾患と内因性疾患）について学ぶ。
2	病因論：感染症	日和見感染症、誤嚥性肺炎、結核症、肝炎ウイルスについて学ぶ。
3	免疫反応	自然免疫と適応免疫、アレルギー、免疫不全等について学ぶ。
4	腫瘍総論	腫瘍の分類、形態学、組織学的特徴について学ぶ。
5	循環器障害	循環器系の概要、構成、全身の循環障害、局所の循環障害等について学ぶ。
6	退行性・進行性病変	萎縮の種類について、褥瘡の原因、壊死とアポトーシスの違い、肥大と過形成等について学ぶ。
7	老化・遺伝子異常・内分泌系の疾患	各疾患について学ぶ。
8	病理学各論：循環器	虚血性心疾患、心筋症、心筋炎、先天性心疾患等について学ぶ。
9	病理学各論：消化器	各疾患について学ぶ。
10	病理学各論：肝・胆囊・脾	肝障害、代謝異常、胆囊および胆道、脾炎等について学ぶ。
11	病理学各論：呼吸器	上気道の疾患、腫瘍、下気道の疾患等について学ぶ。
12	病理学各論：泌尿器	腎臓、下部尿路の疾患について学ぶ。
13	病理学各論：中枢神経	脳・神経系の疾患、感染症等について学ぶ。
14	病理学各論：血液疾患	赤血球系・白血球系・血小板・リンパ節の病理について学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	講義ノートを復習する。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	わかりやすい病理学 改訂第7版 (南江堂)
参考書	
授業の留意点・備考	今までの受動的な学習態度から脱却し、より充実した学習を行うために、自主的な学習態度を身に付け、積極的に疑問に思ったことは質問すること。

科目名	整形外科学					担当教員	岩北 耕三		
-----	-------	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義							
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修	必修									
担当教員の実務経験	整形外科領域の実務に携わった経験を活かし、整形外科領域の主な疾患における症状や検査、治療法について講義を行う。																	
授業概要	理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。																	
到達目標	運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。																	

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・総論	整形外科の定義や領域を総合的に講義する。
2	上肢の疾患	上肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
3	下肢の疾患①	下肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
4	下肢の疾患②	下肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
5	体幹の疾患	脊椎疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
6	末梢神経損傷	代表的な末梢神経障害の病態、診断、治療法について講義する。
7	外傷①	代表的な上肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。
8	外傷②	代表的な下肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。
9	外傷③	代表的な下肢の骨折/脱臼の病態、診断、治療法について講義する。
10	外傷④	スポーツ外傷・障害総論の概要について講義する。
11	リウマチ性疾患	炎症性疾患のリウマチについて病態、診断、治療法について講義する。
12	慢性関節疾患	退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
13	慢性関節疾患	退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
14	骨・軟部腫瘍/代謝性骨疾患他	骨・軟部腫瘍/代謝・内分泌性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input checked="" type="checkbox"/> レポート (30 %) <input type="checkbox"/> 課題 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () %
教科書	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版 メディックメディア
参考書	標準整形外科学 第13版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版
授業の留意点・備考	・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・課題レポートの提出を課す。

科目名	脳神経外科学/神経系の構造・機能・病態						担当教員	斎藤 義樹					
学科	理学作業言語聴覚療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義	
区分	専門基礎分野	教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		脳神経疾患の治療や研究に携わった経験を講義に活用する。											
授業概要		神経解剖や脳神経疾患について基本的な知識を概説する。											
到達目標		リハビリテーションにおける脳神経外科学の重要性を理解し実臨床に活用できるようにする。											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	神経系の解剖 1				中枢神経、末梢神経、脳血管、脳脊髄液、等								
2	神経系の解剖 2				錐体路、錐体外路、知覚伝導路、等								
3	脳血管障害 1				脳出血、くも膜下出血、等								
4	脳血管障害 2				脳梗塞、一過性脳虚血発作、等								
5	頭部外傷				急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、脳挫傷、等								
6	脳腫瘍				脳実質内腫瘍、脳実質外腫瘍、神経皮膚症候群、等								
7	脊髄・脊椎疾患				脊髓空洞症、脊髓腫瘍、脊髓半切症候群、等								
8	機能的脳神経外科				片側顔面けいれん、三叉神経痛、不随意運動、等								
9	先天異常				二分頭蓋、二分脊椎、等								
10	中枢神経系の感染症				髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、等								
11	障害部位と神経症状 1				錐体路障害、錐体外路障害、等								
12	障害部位と神経症状 2				頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、等								
13	障害部位と神経症状 3				意識障害、高次脳機能障害、等								
14	まとめ 1				問題を解説しながら疾患の理解を深める								
15	まとめ 2				問題を解説しながら疾患の理解を深める								
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読んでおく。講義ノートを復習する。											
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版：医学書院											
参考書		病気がみえる vol.7 脳・神経：メディックメディア											
授業の留意点・備考		私語を慎み周囲の人迷惑をかけない。											

科目名	小児科学					担当教員	非常勤講師/専任教員		
-----	------	--	--	--	--	------	------------	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義								
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験		小児科医の臨床経験を活かし、子どもの体の成長と機能の発達、健康状態の評価方法の基礎知識について講義を行う。また行政業務に携わった経験を活かし、社会福祉体系についても述べることができる。																	
授業概要		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの出生から思春期にいたるまでの健康と発達を理解し、将来の社会人として最大限の能力を發揮できるように支援することを学ぶ。 子どもの体の生長と機能の発達の特徴を学び、その正常な生長と発達の障害の原因を理解する。如何にして子どもの健康状態を評価するかの基礎知識を得る。 																	
到達目標		将来、医療に携わる専門職として不可欠な小児の生長と発達及び育児環境について社会体制を含め体系的な理解を得る。																	

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	小児科学とは	小児におけるライフステージ毎の課題を学ぶ。
2	成長と発達	発達法則性、反射の発達的変化および正常発達を学ぶ。
3	診断と治療	治療・訓練に必要となる診察と検査の過程を学ぶ。
4	新生児と未熟児	新生児および未熟児の現代の傾向と医学的評価方法を学ぶ。
5	先天異常と遺伝病	先天異常の発生要因や、代表的な病気（ダウントン症等）を学ぶ。
6	神経・筋・骨格の疾患（1）	原因別の代表的な疾患（てんかん等）について学ぶ。
7	神経・筋・骨格の疾患（2）	原因別の代表的な疾患（筋疾患、筋ジストロフィー等）について学ぶ。
8	内分泌疾患	各種ホルモンの生理を理解し、小児の内分泌疾患を学習する。
9	循環器疾患	循環器の生理を理解し、心機能障害（先天性・後天性）の臨床症状を学習する。
10	呼吸器疾患	呼吸器の生理を理解し、呼吸機能の臨床症状や代表的疾患を学習する。
11	眼科、耳鼻科的疾患	視機能の発達と異常、聴覚障害の代表的疾患を学ぶ。
12	心身医学的疾患	重症心身障害児特有の身体的問題と神経学的問題を学ぶ。
13	消化器疾患	小児の消化器疾患の症状の特徴を学ぶ。
14	小児科学トピックス	発達障害（ASD、LD、ADHD）の最新知見を学ぶ。
15	代謝性疾患	代謝の生理を理解し、糖尿病の臨床症状や代表的疾患を学習する。

準備学習（予習復習）の具体的な内容	特になし。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input type="checkbox"/> 課題（%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）
教科書	標準理学療法學・作業療法學 専門基礎分野 小児科学 第5版（医学書院）
参考書	特になし。
授業の留意点・備考	担当教員により授業計画は前後する。

科目名	リハビリテーション医学	担当教員	金澤知徳/宮崎裕士/竹本舞
-----	-------------	------	---------------

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	リハビリテーション医学とは何か	(金澤) リハビリテーション概論についての理解 (リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等)
2	リハビリテーション医学とは何か	(金澤) リハビリテーション概論についての理解 (リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等)
3	リハビリテーション医学とは何か	(金澤) リハビリテーション概論についての理解 (リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等)
4	リハビリテーション医学とは何か	(金澤) リハビリテーション概論についての理解 (リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等)
5	脳卒中のリハビリテーション	(竹本) 疾患についての理解、病期別のリハビリテーション、具体的なアプローチ
6	パーキンソン症候群のリハビリテーション	(竹本) パーキンソン病とは、臨床症状、障害評価、治療とリハビリテーション
7	神経変性疾患、神経筋疾患のリハビリテーション	(竹本) 疾患についての理解、一般的治療と薬物療法、リハビリテーション治療の概要
8	脊髄損傷のリハビリテーション	(竹本) 脊髄損傷の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
9	四肢切断のリハビリテーション 生活習慣病のリハビリテーション	(宮崎) 四肢切断の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム 生活習慣病の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
10	運動器疾患のリハビリテーション	(宮崎) 運動器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
11	関節リウマチのリハビリテーション	(竹本) 疾患についての理解、一般的治療の流れ、リハビリテーション治療の要点
12	脳性麻痺のリハビリテーション	(宮崎) 脳性麻痺の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
13	心筋梗塞のリハビリテーション	(宮崎) 心筋梗塞の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
14	呼吸器疾患のリハビリテーション	(宮崎) 呼吸器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書や配布資料をよく読み復習すること。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () <input type="checkbox"/> 小テスト () <input type="checkbox"/> レポート () <input type="checkbox"/> 課題 () <input type="checkbox"/> 発表 () <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	PT・OT・STを目指す人のためのリハビリテーション総論：診断と治療社
参考書	適宜資料を配布
授業の留意点・備考	金澤先生の講義および試験は後期に行います。そのため試験結果は前期・後期分を合算し後期に提示します。

科目名	栄養・薬理						担当教員	中村 繁良					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義	
区分	専門基礎分野	教育内容		基礎医学					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		大学卒業後は薬の研究し38才から薬剤師としての業務を始めた。 現在は、地域包括ケア構築に向けて熊本県・熊本市の会議に参加し、他職種との連携を図っている。 もちろん、熊本市主催のリハビリテーション協議会にも参加している。 現状何が必要か今後何を実施すべきかの講義をすることもできる。											
授業概要		患者がどういう薬を服用しているかということは、理学療法・作業療法・言語聴覚療法士にとっても大切なことから、いろいろな疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬について学ぶ。											
到達目標		各疾患の病態生理を説明できる。 代表的な治療薬の名前を説明できる。漢方薬について学び、どの病態に効くか説明できる。緩和医療について説明できる。 対象患者は高齢者が多いことから、お薬の注意事項を説明できる											
授業計画													
回	テーマ			授業内容									
1	認知症 漢方薬等について			今後増えるであろう認知症について学び、代表的な治療薬について学習する。 生薬について学び、漢方薬について適切な使い方について学習する。									
2	循環器・血液系等について			心臓、血管、血液について学び、それらに対する治療薬について学習する。									
3	代謝系・骨粗鬆症について			糖尿病、甲状腺疾患について学び、それに対する治療薬について学習する。									
4	緩和医療・高齢者への投薬について			緩和医療について学ぶ。それに対する薬について学習する。 高齢者は臓器が弱っているため、副作用が出やすいため、注意事項について学習する。									
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義ノート（パワーポイント）を復習する											
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書		講師の先生が資料を用意											
参考書													
授業の留意点・備考													

科目名	栄養・薬理						担当教員	中村 優希					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義	
区分	専門基礎分野	教育内容		基礎医学					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		薬局薬剤師としての経験を活かし、他のコメディカルが実務で活用しやすい実用的な知識について講義出来る											
授業概要		生理学的な基礎知識を基盤に薬の特徴・臨床上の注意点について学習する											
到達目標		生理学的な基礎的な事項を理解した上で薬学的な知識、薬の特徴・注意点を説明できる											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	薬理 ・中枢神経系など				中枢系に作用する薬剤について学ぶ								
2	薬理 ・消化器系・消毒液				胃腸に作用する薬剤、消毒液の違いについて学ぶ								
3	薬理 ・剤型、受容体、動態学				特徴的な剤型、基本的な受容体、血中濃度などの動態学の基礎を学ぶ								
4	薬理 ・抗生剤、抗アレルギー薬				抗生剤・抗菌薬の基礎、抗アレルギー薬の世代別の特徴について学ぶ								
5	薬理 ・ヘルペス、AD/MD、COPD、禁煙、嗜酒薬				生活習慣が密接に関わる薬について学習する。社会問題的な薬剤について触れる								
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習（予習復習）の具体的な内容		生化学的な知識、人体の働きについて教科書で学習しておく											
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)											
教科書		講師の先生が資料を用意											
参考書		わかりやすい薬理学 第3版 編集 安原一											
授業の留意点・備考		毎回の小テストは必ず復習しておくこと											

科目名	栄養・薬理						担当教員	富永 志保					
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義	
区分	専門基礎分野	教育内容		基礎医学					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		管理栄養士として病院や老健で勤務した経験を活かし、リハビリテーションを実施していくうえで必要な栄養素等について講義できる。											
授業概要		臨床現場でPT・OT・STによる機能訓練を行う患者の多くが高齢者であり、リハビリを施行する患者は昨今低栄養素およびその可能性がある。ADL・QOLをUPさせるためには適切な栄養管理が必要である。その知識を習得するための学習を行う。											
到達目標		栄養素の基礎、三大・五大栄養素について学ぶことにより病気の発症・治療・食事の関係について理解できる。又、自分の食生活について振り返り、自己管理できるよう学ぶことが出来る。											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	今何故栄養学なのか				食べる事の意見とは								
2	栄養の基礎について				三大栄養素について学ぶ								
3	病気と栄養について				病気の発症や治療と食事の関係について考える								
4	主な疾患の栄養療法について				各疾患の栄養管理について学ぶ								
5	栄養関連事項～嗜好品の考え方～				今後生活していく上での自己管理と嗜好品についての考え方を学ぶ								
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習（予習復習）の具体的な内容		講義資料を復習する											
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10 %) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書		講師の先生が資料を用意											
参考書		リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎(医歯薬出版) よくわかる栄養学の基本としくみ(秀和システム)											
授業の留意点・備考		わからないことを積極的に質問してほしい。 ところが剤や流動食の試飲等予定しています。積極的に参加してください。											

科目名	保健医療福祉論					担当教員	紫藤 千子 前野 祥子		
-----	---------	--	--	--	--	------	----------------	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義								
区分	専門基礎分野	教育内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士として、長年にわたる福祉の現場での実践経験を踏まえて、より具体的な講義、GWなどの演習を行うことができる。																		
授業概要	保健医療福祉論の中の福祉に関して、高齢者、障害者、児童の福祉について、年金や生活保護などの金銭的な面、就労支援、権利擁護の考え方、制度に関して学ぶ。																		
到達目標	クライエントを、生活する人としてとらえ、その暮らしに関わる様々な社会福祉の基礎知識を得て、社会福祉制度に関して理解を深め、今、社会福祉がどのような現状にあり、課題を抱えているのか知り、クライエントを支援するための知識を得る。																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 障害者福祉①	障害者の状況、障害者福祉、障害者総合支援法
2	障害者福祉②	障害児支援、子育て支援、高齢者福祉
3	生活費①	年金制度、生活保護制度
4	生活費②	社会手当、生活困窮者自立支援法
5	生活費③	税、相続、家族法
6	就労支援	雇用保険、労災保険、就労支援
7	権利擁護①	虐待防止法
8	権利擁護②	成年後見制度、消費者保護
9	多職種連携とチーム医療	多職種連携が求められる背景・その目的を学習する。 多職種を理解し医療職の専門性について学習する。
10	リーダーシップ論とは	リーダーシップとメンバーシップを学習する。 意思決定能力と問題可決能力について学習する。
11	チーム・アプローチの基本構造	チームビルディング（組織化）の4場面と4要素について学習する。P D C Aサイクルと目標と共有化、役割分担、リスクマネジメントについて学習する。
12	チーム・アプローチにおける課題と対応	多様性への対応（ファシリテーション・アサーション・コンフリクトマネジメント）について学習する。
13	多職種連携の実践（急性期）	急性期医療における多職種連携のポイントを学習する。
14	多職種連携の実践（在宅）	在宅医療における多職種連携のポイントを学習する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める。

準備学習（予習復習）の具体的な内容	事前に教科書を読む
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	2020年度版社会保障制度指差しガイド いとう総研編 日総研
参考書	
授業の留意点・備考	・グループワークを行う際は、積極的に参加すること。 ・授業中の私語はしないこと。

科目名	理学療法概論						担当教員	宮崎 裕士		
-----	--------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験	介護老人施設での医療・保健・福祉における理学療法士経験を活かし、我が国における理学療法士の専門性について講義・演習を行うことができる。										
授業概要	理学療法の定義や歴史、その背景となった倫理・哲学等の学習を通して、我が国のリハビリテーション医療における理学療法士の位置づけや役割、課題、展望について理解する。さらに、理学療法の対象や手段、流れについても触れ、専門性を最大限に活かしながらリハビリテーションチームの一員として他職種とどのように協働するべきかを考える。										
到達目標	理学療法士を目指す学生として相応しい学習姿勢や考え方を養いながら、理学療法の業務に関わる総合的な知識を身につけ、リハビリテーション専門職としての社会的な位置づけとその役割がきちんと説明できる。										

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	日本と諸外国の理学療法①	日本の理学療法の歴史、リハビリテーション、理学療法士および作業療法士法について学習する。
2	日本と諸外国の理学療法②	世界の理学療法(アメリカおよびその他の国)について学習する。
3	日本と諸外国の理学療法③	日本の理学療法の課題について学習する。
4	ICDとICIDHとICF①	ICD(国際疾病分類)とICIDH(国際障害分類)について学習する。
5	ICDとICIDHとICF②	ICIDH(国際障害分類)とICF(国際生活機能分類)について学習する。
6	ICDとICIDHとICF③	ICIDH(国際障害分類)とICF(国際生活機能分類)について学習する。
7	理学療法評価と治療①	理学療法評価、評価手順、ADLについて学習する。
8	理学療法評価と治療②	QOL、健康生成論、評価に基づいた治療実施、再評価と記録報告について学習する。
9	理学療法評価と治療③	理学療法における治療(EBM, NBM, VBM・運動療法・物理療法・その他)および医療事故について学習する。
10	理学療法士に求められる要素①	理学療法士に求められる3つの領域、要求される認知領域、情意領域について学習する。
11	理学療法士に求められる要素②	理学療法士に要求される精神運動領域、倫理について学習する。
12	理学療法士に求められる要素③	理学療法士としての志(立志の意義、天職の意義)について学習する。
13	日本人に影響を与えていた思想	古事記・神話、儒教、仏教、神道、武士道など日本人に影響を与えていた思想を学習する。
14	障害受容と幸福	障害受容、障害受容の段階、幸福度について学習する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習(予習復習)の具体的な内容	教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	PT・OTビジュアルテキスト「理学療法概論(第1版)」(羊土社)
参考書	
授業の留意点・備考	教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。

科目名	理学療法セミナーI						担当教員	山下 俊		
-----	-----------	--	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習								
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験	理学療法士として主に総合病院の急性期から回復期医療に携わってきたことを活かし講義を行う。																		
授業概要	理学療法士の職業内容や職域、職業観を学ぶだけでなく、医療人や社会人として必要な知識や社会性を学習していく。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士を目指す学生として規則やマナーの重要性を理解することができる。 コミュニケーションの重要性を理解することができる。 理学療法士としてのプロフェッショナリズムの基礎を身につけることができる。 																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本講義の授業概要の説明と導入、クラスの集いを通じ仲間との連携を深める。
2	理学療法士のコミュニケーション論①	理学療法士のコミュニケーションを知り、自分のコミュニケーションや性格を知る。
3	理学療法士のコミュニケーション論②	グループワークにてコミュニケーションについてディスカッションを行う。
4	理学療法士の仕事について①	理学療法の対象について学習する。
5	理学療法士の仕事について②	理学療法士の仕事についてグループワークにてディスカッションを行う。
6	理学療法士の活躍の場所①	理学療法士が活躍する分野を理解し、理学療法士の役割を知る。
7	理学療法士の活躍の場所②	理学療法士の活躍の場所についてグループワークでディスカッションを行う。
8	理学療法士の資質および学生に求められるもの①	社会人基礎力、職業倫理、学校や臨床現場にて求められていることを知る。
9	理学療法士の資質および学生に求められるもの②	理学療法士の資質についてグループワークにてディスカッションを行う。
10	医療人としての接遇とマナー①	医療現場における接遇について講義を通し学習する。
11	医療人としての接遇とマナー②	医療現場における接遇について演習を通し学習する。
12	個人情報の管理①	個人情報保護法について基本事項を学習し、記録の意義や、取り扱いなどの留意事項を学習する。
13	個人情報の管理②	個人情報の管理について事例を通してレポートを作成する。
14	医療事故とリスクマネジメント①	医療事故に関する法的責任や医療事故の実態を学習し、医療におけるリスクマネジメントの基本的概念を知る。
15	医療事故とリスクマネジメント②	医療事故とリスクマネジメントについて事例を通してレポートを作成する。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	宿泊研修オリエンテーション	阿蘇宿泊研修オリエンテーションを行い、医療・福祉に携わるセラピストを目指す学生としての自覚を養うとともに協調性の意義を学習する。
17	援助的コミュニケーション①	阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。
18	援助的コミュニケーション②	阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。
19	援助的コミュニケーション③	阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。
20	宿泊研修振り返り	阿蘇宿泊研修を振り返り、「私が目指すPT像」レポート作成する。
21	見学実習について①	実習の手引きを用い、実習に向けて必要な態度・知識・技術を講義する。
22	見学実習について②	実習の手引きを用い、実習に向けて必要な態度・知識・技術を講義する。
23	基本動作の介助方法①	起居動作についての介助方法を講義・演習を通して学習する。
24	基本動作の介助方法②	歩行についての介助方法を講義・演習を通して学習する。
25	基本動作の介助方法③	車椅子についての介助方法を講義・演習を通して学習する。
26	基本動作の介助方法④	移乗動作についての介助方法を講義・演習を通して学習する。
27	見学実習の具体的準備①	実習直前のオリエンテーション
28	見学実習の具体的準備②	書類作成と確認
29	見学実習の具体的準備③	実習中の注意事項
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習（予習復習）の具体的な内容		特記なし
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験 () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input checked="" type="checkbox"/> レポート (40 %) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (30 %) <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (30 %) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書		随時講義資料を配布する。
参考書		会話例とワークで学ぶ 理学療法コミュニケーション論：医歯薬出版株式会社、理学療法学テキストⅠ 理学療法概論第4版：九州神稟文庫
授業の留意点・備考		積極的に授業に参加し、自ら「考え」「発言」する習慣を付けること。 実習などに関わる内容も多いため必ず必要事項をメモをとる習慣と忘れ物が無いように注意する。 演習時は福祉用具などの準備物も多いため、クラス全体で協力して準備・片付けを行う。

科目名	理学療法セミナーⅡ						担当教員	山本英夫		
-----	-----------	--	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習								
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし講義を行う。																	
授業概要		理学療法士に必要不可欠となる知識・技術の中で、1年次に学ぶ専門基礎分野の内容をより臨床的につなげた学習を行うことにより、次学年の学習や国家試験に対応できる学習能力を身につける。																	
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 1年次に学ぶ専門基礎分野（特に解剖学・運動学・生理学）などについて理解を深める。 国家試験の問題を解き、調べ学習を行い、調べた内容を発表し理解を深める。 解剖学や運動学について実際に標本や体表に触れる演習を通じ包括的に理解を深める。 																	

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	理学療法セミナーⅡの授業進行・予定をオリエンテーションし、学習の到達目標について説明する。
2	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
3	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
4	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
5	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
6	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
7	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
8	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
9	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
10	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
11	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
12	骨・筋および軟部組織	模型などを用いて学習する。
13	確認テスト	これまで学習してきた内容についての理解度を確認し、今後の課題についてを見出す。
14	他学年との交流会	先輩方から学習についてや実習、臨床現場について、実技など様々な点を交流を通して学ぶ。
15	他学年との交流会	先輩方から学習についてや実習、臨床現場について、実技など様々な点を交流を通して学ぶ。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	国家試験について	国家試験問題に触れ、学習方法についてのオリエンテーション
17	解剖学①	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
18	解剖学②	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
19	解剖学③	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
20	解剖学④	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
21	運動学①	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
22	運動学②	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
23	運動学③	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
24	運動学④	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
25	運動学⑤	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
26	生理学①	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
27	生理学②	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
28	生理学③	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
29	生理学④	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業の予習・復習を十分に行うこと。
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (50 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書		なし
参考書		適宜資料を配布
授業の留意点・備考		調べ学習は自ら積極的に行い、グループで行うシェア学習では解らないことを素直に発信するとともに、解らないことを全員で解決するよう協力して授業に取り組むこと。

科目名	機能障害学					担当教員	佐藤 健		
-----	-------	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義							
区分	基礎分野	教育内容	疾病と障害					選択・必修	必修									
担当教員の実務経験	病院やクリニックといった医療機関に身を置いて様々な機能障害を有する症例の理学療法に従事した経験を活かし、身体器官における機能的諸問題について講義を行う。																	
授業概要	理学療法の主な治療対象である身体器官の機能的諸問題について学び、様々な器官の損傷によってもたらされる身体変化（治癒過程とイベントを含む）に対して求められる理学療法士としての関わり方について学ぶ。																	
到達目標	ヒトのからだの構造的特徴と生理的機能を理解し、身体器官における機能的諸問題について病態及び発生メカニズムに関する基本的概要を説明することができる。																	

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	機能障害とは	症候と障害の違いについて学習し、機能障害とは何かを考えるとともにICD・ICIDH・ICFなどの国際的分類を理解する
2	炎症について①	炎症の定義と肉眼的特徴を学習し、急性及び慢性炎症について理解する
3	炎症について②	細胞死について学習し、炎症における組織変化（肉眼的特徴の発生）を理解する
4	創傷とその治癒過程	創傷の定義と分類、熱傷における重症度分類と5の法則・9の法則、褥瘡の定義と重症度分類（DESIGN）の学習を通して創傷の治癒過程とイベントを理解する
5	骨折とその治癒過程①	骨折の定義について学習し、様々な骨折と走行形態を理解する
6	骨折とその治癒過程②	骨折の全身症候と局所症候を学習し、骨折の治癒過程とイベントを理解する
7	靭帯損傷とその治癒過程	靭帯損傷の定義、急性外傷と慢性外傷について学習し、靭帯損傷の治癒過程とイベントを理解する
8	腱損傷とその治癒過程	腱損傷の定義、腱断裂と腱炎について学習し、腱損傷の治癒過程とイベントを理解する
9	筋損傷とその治癒過程①	筋損傷の定義について学習し、様々な損傷とその特徴（外傷・一般・虚血・その他）を理解する
10	筋損傷とその治癒過程②	筋損傷の指標や筋損傷後にみられる変化について学習し、筋損傷の治癒過程とイベントを理解する
11	末梢神経損傷とその治癒過程	ニューロパシー、さらには末梢神経損傷の分類について学習し、代表的な骨格筋麻痺とSD曲線の特徴を踏まえてその回復過程とイベントを理解する
12	運動麻痺と筋トーネス異常	運動麻痺・筋トーネス異常（亢進・低下）の定義について学習し、痙攣と固縮の違い、中枢神経性麻痺の分類や回復の特徴を理解する
13	意識障害について	意識障害の定義やその分類（量的障害と質的障害）と特徴等を学習し、その評価法（JCSとGCS）について理解する
14	高次脳機能障害について	高次脳機能障害の定義について学習し、代表的な症候（失行・失認・失語）について理解する
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。
-------------------	---

成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20 %) <input type="checkbox"/> レポート () <input type="checkbox"/> 課題 () <input type="checkbox"/> 発表 () <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

教科書	・『機能障害科学入門』千住秀明（監）神稲文庫
-----	------------------------

参考書	
-----	--

授業の留意点・備考	単なる暗記ではなく、臨床実習や資格取得後の実務における治療対象であることを認識し、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。
-----------	---

科目名	理学療法研究法Ⅱ							担当教員	佐藤 健				
学科	理学療法学科		年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習	
区分	専門分野	教育内容		基礎理学療法学					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		理学療法の学術分野における学会発表ならびに大学院での研究経験に基づいて講義を実施する。											
授業概要		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通して、立案した研究計画に従いながら結果を導くまでの一連の過程を経験する。 ・導き出した結果に対して根拠のある意味づけ（考察）を図り、第三者に説明することを経験する。 											
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・立案した計画に沿って研究を行い、必要な統計手法を用いて結果を導くことができる。 ・先行研究や関連する分野の文献等を用いて、結果に対する根拠のある意味づけ（考察）ができる。 ・研究の取り組みならびに結果・考察を分かりやすく、かつ簡潔に説明することができる。 											
授業計画													
回	テーマ			授業内容									
1	オリエンテーション			研究データの管理方法について学び演習する。 データ記録用紙の作成のポイントについて学び演習する。									
2	グループ活動①			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。									
3	グループ活動②			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。									
4	グループ活動③			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。									
5	グループ活動④			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。									
6	グループ活動⑤			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。									
7	グループ活動⑥			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。									
8	グループ活動⑦			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。									
9	グループ活動⑧			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。									
10	抄録の作成①			抄録の作成法について学ぶ。									
11	抄録の作成②			抄録の作成法について学び演習する。									
12	スライドの作成①			発表スライドの作成法について学ぶ。									
13	スライドの作成②			発表スライドの作成法について学び演習する。									
14	研究発表①			理学療法研究発表会を通して研究の重要性を学ぶ。									
15	研究発表②			理学療法研究発表会を通して研究の重要性を学ぶ。									
準備学習（予習復習）の具体的な内容		消耗品の在庫確認や、被験者の予定管理を計画的に準備すること。											
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (100 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)											
教科書		理学療法学講座 理学療法研究法（医歯薬出版）											
参考書		なし											
授業の留意点・備考		本講義はグループワークが中心となる。よって、全員が協力して遂行していくこと。											

科目名	理学療法管理学						担当教員	緒方茂・岩北耕三		
-----	---------	--	--	--	--	--	------	----------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習									
区分	専門分野	教育内容	理学療法管理学				選択・必修		必修											
担当教員の実務経験	介護支援専門員の資格と理学療法士として10年以上の臨床経験と部門管理者の経験を活かし、法令・管理運営について講義を行う。																			
授業概要	理学療法士における法令・管理とは、対象者に質の高い理学療法を施行できるために運営することを目的とする。そのため、臨床現場におけるマネジメントの知識、職場管理、環境整備、リスクマネジメントなどの幅広い知識を本授業で教授していく。																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法における法令・管理運営論を体系的に学び、臨床現場に必要な知識を習得する。 ・理学療法管理運営の概要を理解する。 ・良質な医療を提供するために必要な知識を習得する。 ・理学療法の課題と解決法を理解する。 																			

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	総論 法令・管理運営論とは	法令・管理運営論の授業進行・予定をオリエンテーションし、管理運営論を学ぶ意義について講義する。
2	総論 法令・管理運営論とは	法令・管理運営論の授業進行・予定をオリエンテーションし、管理運営論を学ぶ意義について講義する。
3	リスクマネジメント論	リスクマネジメントの概要と管理運営の手法を講義する。
4	リスクマネジメント論	リスクマネジメントの概要と管理運営の手法を講義する。
5	良質な医療提供 コミュニケーションスキル	良質な医療提供を行うためのコミュニケーションの重要性と技術を講義する。
6	良質な医療提供 コミュニケーションスキル	良質な医療提供を行うためのコミュニケーションの重要性と技術を講義する。
7	良質な医療提供 各手法・PDCAサイクル	PDCAサイクルの概要と手法を講義する。
8	良質な医療提供 各手法・PDCAサイクル	PDCAサイクルの概要と手法を講義する。
9	良質な医療提供 EBMと情報提供	EBMおよびEBPTの概要と利用方法について講義する。
10	良質な医療提供 EBMと情報提供	EBMおよびEBPTの概要と利用方法について講義する。
11	臨床現場におけるデータ管理	臨床現場でのデータ管理の意義や手法について講義する。
12	臨床現場におけるデータ管理	臨床現場でのデータ管理の意義や手法について講義する。
13	臨床現場におけるデータ管理	臨床現場でのデータ管理の講義について各自、理解度を確認する。
14	臨床現場におけるデータ管理	臨床現場でのデータ管理の講義について各自、理解度を確認する。
15	臨床現場におけるデータ管理	臨床現場でのデータ管理の講義について各自、理解度を確認する。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	社会保障と保険制度	社会保障の概要と保険制度（医療・介護）について講義する。
17	社会保障と保険制度	社会保障の概要と保険制度（医療・介護）について講義する。
18	社会保障と保険制度	社会保障と保険制度の講義について各自、理解度を確認する。
19	社会保障と保険制度	社会保障と保険制度の講義について各自、理解度を確認する。
20	社会保障と保険制度	社会保障と保険制度の講義について各自、理解度を確認する。
21	社会保障と保険制度	社会保障と保険制度の講義について各自、理解度を確認する。
22	身分法と職能団体	理学療法士の身分法と理学療法士に関わる団体について講義する。
23	身分法と職能団体	身分法と職能団体の講義について各自、理解度を確認する。
24	身分法と職能団体	身分法と職能団体の講義について各自、理解度を確認する。
25	職域の拡大	理学療法士の現状と職域の拡大について講義する。
26	職域の拡大	理学療法士の現状と職域の拡大について講義する。
27	職域の拡大	職域の拡大の講義について各自、理解度を確認する。
28	理学療法士の未来像	理学療法士を取り巻く現状と将来から理学療法士の未来像について講義する。
29	まとめ	これまでの講義のまとめを行う。
30	まとめ	これまでの講義のまとめを行う。
準備学習（予習復習）の具体的な内容	授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること	
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()	
教科書	理学療法管理学 南江堂	
参考書		
授業の留意点・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。 	

科目名	理学療法評価学 I						担当教員	宮崎 裕士・山下 俊									
学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態							
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学				選択・必修	必修									
担当教員の実務経験		担当教員は整形外科および老人保健施設等に勤務し、整形疾患および中枢疾患のリハビリテーションの一環として対象者に評価を行っていた。															
授業概要		理学療法評価は対象者の身体的なを把握する上で、治療方針を決定するために重要な位置付けである。総論から各検査について講義と演習にて検査の意義、目的を学習し、学生同士で練習し技術の向上を図る。理学療法評価学 I では、総論、形態測定、関節可動域検査、反射検査、感覚検査、疼痛検査、協調性検査について学習する。															
到達目標		各検査測定の意義と目的を理解し、正確に検査が実施できる。検査結果が何を意味しているか、また他の検査との関連性を説明することができる。															
授業計画																	
回	テーマ				授業内容												
1	評価学総論①				評価の意義、目的、過程、およびICIDH、ICFに基いた評価について学習する。												
2	評価学総論②				評価の種類、記録の取り方、医療情報の種類と情報収集の取り方、検査尺度と定性定量について学習する。												
3	バイタルサイン				バイタルサイン、意識障害、心拍・脈拍、呼吸、血圧およびリハビリテーション中止基準について学習する。												
4	形態測定①				形態測定の意義目的および形態測定の種類、実施時の注意事項を学習し、演習にて身長体重の測定を行い、栄養状態と体格指數を理解する。												
5	形態測定②				四肢長の種類と計測点を学習し、演習にてメジャーの使い方と実際の計り方を実践する。												
6	形態測定③				四肢周径の種類と計測点を学習し、演習にてメジャーの使い方と実際の計り方を実践する。												
7	関節可動域測定①				関節可動域測定の定義と目的、身体の基本的肢位と基本的速度方向、測定上の注意事項を学習し、測定器具の取扱いを演習する。												
8	関節可動域測定②				関節可動域測定における肩甲帶の機能解剖を確認し、肩甲骨の動きとその計測法を演習する。												
9	関節可動域測定③				関節可動域測定における肩関節、肘関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。												
10	関節可動域測定④				関節可動域測定における前腕、手関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。												
11	関節可動域測定⑤				関節可動域測定における股関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。												
12	関節可動域測定⑥				関節可動域測定における膝関節、足関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。												
13	関節可動域測定⑦				関節可動域測定における頸部、体幹の機能解剖を確認しその計測法を演習する。												
14	関節可動域測定⑧				関節可動域測定のまとめ総合的な復習を行い、関節可動域測定の全体的な方法と注意点の理解を深める。												
15	疼痛検査				痛みの分類、受容器や伝導路、検査上の注意点および各種評価法について学習する。												

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	反射検査①	反射の種類、発生するメカニズム、反射の異常について理解する。
17	反射検査②	反射検査を行う意義・目的、注意点を理解する。
18	反射検査③	脳神経領域および深部腱反射検査を実施する。
19	反射検査④	脳神経領域および深部腱反射検査を実施する。
20	反射検査⑤	病的反射および表在反射を実施する。
21	感覚検査①	感覚の分類、感覚の役割、感覚の伝導路、感覚の障害について理解する。
22	感覚検査②	感覚検査の意義や目的、注意点について理解する。
23	感覚検査③	表在感覚の検査を実施する。
24	感覚検査④	深部感覚の検査を実施する。
25	感覚検査⑤	複合感覚の検査を実施する。
26	症例検討	症例情報を掲示し、検査結果からアセスメントを実施する。
27	協調性検査①	運動の調節と実行を理解し、運動麻痺と運動失調を理解する。
28	協調性検査②	協調性検査の意義と目的、注意点について理解する。
29	協調性検査③	協調性検査を実施する。
30	まとめ	これまでの学習を総括する。
準備学習（予習復習）の具体的な内容		検査の意義を速やかに理解できるよう、解剖学、生理学を見直して臨むこと。学生同士で練習し復習すること。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60 %) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書		理学療法評価学（金原出版） ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）
参考書		なし
授業の留意点・備考		実技のデモンストレーションを行う際は、積極的に被験者になること。

科目名	理学療法評価学Ⅱ						担当教員	山本 英夫										
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60								
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学				選択・必修		必修									
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし、理学療法評価の各種検査測定について講義、演習を行うことができる。																
授業概要		理学療法評価は対象者の身体的なを把握する上で、治療方針を決定するために重要な位置付けである。総論から各検査について講義と演習にて検査の意義、目的を学習し、学生同士で練習し技術の向上を図る。理学療法評価学Ⅱでは、徒手筋力テスト、片麻痺機能検査、筋緊張検査、脳神経検査、高次脳機能検査について学習する。																
到達目標		各検査測定の意義と目的を理解し、正確に検査が実施できる。検査結果が何を意味しているか、また他の検査との関連性を説明することができる。																
授業計画																		
回	テーマ				授業内容													
1	オリエンテーション				オリエンテーションにてシラバスを使用し授業内容の説明する。今後の授業の方向性や進め方を理解する。													
2	徒手筋力テスト（MMT）：総論①				MMTの成り立ちや歴史について学習する。筋力検査の原理、段階づけについて学習し基本的な考え方とMMTの方法について演習する。													
3	徒手筋力テスト（MMT）：総論②				MMTの代償運動について、筋力検査の妥当性と限界について学習する。													
4	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢①				肩甲帶のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し、演習する。													
5	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢②				肩甲帶のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
6	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢③				肩関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
7	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢④				肩関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
8	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢⑤				肘関節・前腕のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
9	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢⑥				手関節・手指のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
10	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢①				股関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
11	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢②				股関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
12	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢③				膝関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
13	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢④				足関節・足部・足趾のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
14	徒手筋力テスト（MMT）各論：体幹①				頭部・頸部のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													
15	徒手筋力テスト（MMT）各論：体幹②				体幹のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。													

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	片麻痺機能検査①	片麻痺機能検査について、片麻痺の理解を深め、検査の意義・目的について学習する。
17	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査 (Brunnstrom recovery stage) の基本的な概念について学習し、検査方法を演習する。
18	片麻痺機能検査③	片麻痺機能検査 (Brunnstrom recovery stage) の基本的な概念について学習し、検査方法を演習する。
19	片麻痺機能検査④	その他片麻痺機能検査 (SIAS、12段階片麻痺機能テスト) について学習し、演習する。
20	筋緊張検査①	筋緊張異常について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。
21	筋緊張検査②	筋緊張検査 (検査方法・Ashworthscale) について学習し、演習する。
22	脳神経検査①	脳神経障害について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。
23	脳神経検査②	脳神経検査の方法について学習し、演習する。
24	高次脳機能検査①	高次脳機能障害について、失語症、失行症を中心に責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
25	高次脳機能検査②	高次脳機能障害について失認症の責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
26	高次脳機能検査③	高次脳機能障害についての責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
27	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
28	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
29	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
30	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習）の具体的な内容	検査の意義を速やかに理解できるよう、解剖学、生理学を見直して臨むこと。学生同士で練習し復習すること。	
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (40%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()	
教科書	新徒手筋力検査法 (協同医書出版社) 理学療法評価法 (神陵文庫) ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)	
参考書	なし	
授業の留意点・備考	実技のデモンストレーションを行う際は、積極的に被験者になること。	

科目名	理学療法評価学演習					担当教員	山本 英夫		
-----	-----------	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習							
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学					選択・必修	必修									
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし、理学療法評価の思考過程について演習を行うことができる。																
授業概要		理学療法評価の初期の流れにおいて、処方箋の受領から障害やその原因の仮説、検査項目の選択し、その思考過程を構築するための演習を行う。それぞれ検査測定の目的を理解し、治療へ繋がる問題点を導き出すための重要な土台となる。																
到達目標		初期情報から、模擬患者の社会的背景、疾患の病態や特徴を包括的に把握し、意義のある検査項目を選定することができる。また、評価時のリスクを考慮することができる。																

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション①	理学療法評価における検査測定の選択の根拠について、多角的に捉える視点を学習し演習する。
2	オリエンテーション②	考え方のポイントをロジックツリーを用いて模擬症例にて演習する。
3	整形外科疾患①	整形外科疾患の模擬症例について、各班で調べ学習、ディスカッションにて模擬症例を理解する。
4	整形外科疾患①	整形外科疾患の模擬症例について、初期情報より問題点の仮説を立てその原因について考える。
5	整形外科疾患②	思考過程をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。
6	整形外科疾患②	思考過程をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。
7	整形外科疾患③	まとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。
8	整形外科疾患③	まとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。
9	中枢神経疾患①	中枢神経系疾患の模擬症例について、各班で調べ学習、ディスカッションにて模擬症例を理解する。
10	中枢神経疾患①	中枢神経系疾患の模擬症例について、初期情報より問題点の仮説を立てその原因について考える。
11	中枢神経疾患②	思考過程をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。
12	中枢神経疾患②	思考過程をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。
13	中枢神経疾患③	まとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。
14	中枢神経疾患③	まとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。
15	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。

準備学習（予習復習）の具体的な内容	疾患に関する知識（病態、症状など）、解剖学、運動学、生理学や検査測定の意義、目的を復習して理解しておくこと。
成績評価	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (60 %) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (40 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	特に指定なし
参考書	隨時、必要な文献を用意すること
授業の留意点・備考	能動的に学習すること。視野を広くもち考える習慣をつけること。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	筋力（筋張力）低下と運動療法①	筋力増強に必要な周辺知識（筋張力と筋持久力の違い・筋の収縮様式など）について学ぶ
17	筋力（筋張力）低下と運動療法②	筋力増強に必要な周辺知識（特性など）について学ぶ
18	筋力（筋張力）低下と運動療法③	筋力増強に必要な周辺知識（原則など）について学ぶ
19	筋力（筋張力）低下と運動療法④	上肢における基本的な筋力増強運動を演習する
20	筋力（筋張力）低下と運動療法⑤	下肢における基本的な筋力増強運動を演習する
21	バランス障害と運動療法①	バランスの定義や力学的解釈を理解しバランスに影響する因子を学習する
22	バランス障害と運動療法②	バランスに関係する身体要素について学習する
23	バランス障害と運動療法③	身体におけるバランス戦略と基本的なバランスエクササイズを演習する
24	協調性障害と運動療法①	協調性獲得に必要な運動制御とその神経機構について学ぶ
25	協調性障害と運動療法②	協調性改善に求められる原則的な関わり方と留意点を学ぶ
26	協調性障害と運動療法③	運動学習の基本について学ぶ
27	治療体操および運動①	Williams体操, McKenzie体操, Kraus-Weber体操について学び演習する
28	治療体操および運動②	Bohler体操, Klapp運動, Coddman体操について学び演習する
29	治療体操および運動③	Frenkel体操, 骨盤底筋体操, Buerger-Allen体操について学び演習する
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書		・Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学（メジカルビュー社） ・最新運動療法大全 I 基礎編 第6版（ガイアブックス）
参考書		
授業の留意点・備考		本講義では現場に即した身だしなみ（実習靴及び実習着着用、整髪、貴金属類の装着不可等）や態度での受講を基本とする。問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互的理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。

科目名	運動器理学療法Ⅱ						担当教員	岩北 耕三		
-----	----------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習								
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修									
担当教員の実務経験		理学療法士として10年以上、運動器疾患理学療法の臨床経験をもち、多数の症例を経験してきたことを活かし、運動器疾患理学療法の講義を行う。																	
授業概要		理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。																	
到達目標		運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。																	

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	骨性障害①	骨折総論
2	骨性障害②	大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術前、術後）
3	骨性障害③	大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術後回復期） 大腿骨頸部骨折、転子部骨折（高齢者プログラム）
4	骨性障害⑤	上肢・下肢の骨折
5	骨性障害⑥	脊椎の骨折
6	筋・軟部組織性障害①	筋・軟部組織性障害の概論
7	筋・軟部組織性障害②	肩関節周囲炎
8	筋・軟部組織性障害③	肩腱板損傷（保存療法、手術療法）
9	Motor unit性障害	Motor unit性障害
10	脊椎性障害①	頸椎椎間板ヘルニア、頸部脊椎症、頸部後縦靭帯骨化症
11	脊椎性障害②	急性腰痛、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症
12	脊椎性障害③	慢性腰痛症
13	複合障害	関節リウマチ
14	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () <input type="checkbox"/> 小テスト () <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> 課題 () <input type="checkbox"/> 発表 () <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	シンプル理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版
参考書	
授業の留意点・備考	・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。

科目名	神経理学療法 I						担当教員	楠本 敏文		
-----	----------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義						
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修							
担当教員の実務経験	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、脳血管疾患の病態、障害像、理学療法評価及び治療プログラムについて講義する。																
授業概要	脳血管疾患の概要（病態生理）を理解し、的確な評価に基づいて患者の障害構造を正しく理解するとともに、病期に応じた適切な介入について学習する。																
到達目標	神経解剖学および生理学の基本的内容について理解できる。 脳血管疾患に対する理学療法の方向性、脳損傷の病態および症状について理解できる。																

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	解剖生理の知識①	大脳の構造と機能について理解する
2	解剖生理の知識②	脳のシステムについて理解する
3	解剖生理の知識③	脳の血管について理解する
4	脳卒中の病態と治療①	脳卒中の原因と病態について理解する
5	脳卒中の病態と治療②	脳卒中の内科的治療・外科的治療について理解する
6	脳卒中の病態と治療③	脳卒中リハビリテーションの理論とリスク管理について理解する
7	評価の知識①	ADLと総合評価について理解する
8	評価の知識②	運動機能検査について理解する
9	評価の知識③	動作(歩行)分析について理解する
10	評価の知識④	画像から見た脳の障害と可能性について理解する
11	脳卒中の原因と病態	脳卒中危険因子・脳卒中の種類と病型・病態 脳血管の解剖
12	脳機能解剖と農村正午の回復過程	脳構の特定と解剖・脳機能ネットワーク
13	脳画像のみかた	CT・MRIの種類と特性・中心溝等のランドマークの同定・病巣と症状について
14	評価とICF	脳卒中片麻痺評価・ICFの説明とその活用
15	前期末定期試験	筆記試験

準備学習（予習復習）の具体的な内容	講義毎に復習を行い理解度を高めること。 解剖・生理・運動学を復習すること。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () <input type="checkbox"/> 小テスト () <input type="checkbox"/> レポート () <input type="checkbox"/> 課題 () <input type="checkbox"/> 発表 () <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	脳卒中理学療法の理論と技術 第4版：株式会社メディカルピュ-社
参考書	病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版：株式会社メディカルピュ-社
授業の留意点・備考	自主的な学習を心掛けること。

科目名	神経筋疾患理学療法						担当教員	楠本 敏文		
-----	-----------	--	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習								
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学					選択・必修	必修										
担当教員の実務経験	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、神経筋疾患の病態、障害像、理学療法評価及び治療プログラムについて講義する。																		
授業概要	神経筋疾患の概要（病態生理）を理解し、的確な評価に基づいて患者の障害構造を正しく理解するとともに、病期に応じた適切な介入について学習する。																		
到達目標	神経解剖学および生理学の基本的内容について理解できる。 神経筋疾患に対する理学療法の方向性、病態および症状について理解できる。																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	パーキンソン病①	パーキンソン病の病態と治療について理解する
2	パーキンソン病②	パーキンソン病に対する評価について理解する
3	パーキンソン病③	パーキンソン病に対する理学療法について理解する
4	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症①	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の病態と治療について理解する
5	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症②	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症に対する評価について理解する
6	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症③	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の病態と治療について理解する
7	筋ジストロフィー①	筋ジストロフィーの病態と治療、評価について理解する
8	筋ジストロフィー②	筋ジストロフィーに対する理学療法について理解する
9	筋萎縮性側索硬化症①	筋萎縮性側索硬化症の病態と治療、評価について理解する
10	筋萎縮性側索硬化症②	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法について理解する
11	多発性硬化症	多発性硬化症の病態と治療、評価、理学療法について理解する
12	多発神経炎・ニューロパチー (ギラン・バレー症候群) ①	多発神経炎・ニューロパチー (ギラン・バレー症候群) の病態と治療、評価について理解する
13	多発神経炎・ニューロパチー (ギラン・バレー症候群) ②	多発神経炎・ニューロパチー (ギラン・バレー症候群) に対する理学療法について理解する
14	末梢神経損傷	末梢神経損傷の病態と治療、評価、理学療法について理解する
15	定期試験	筆記試験

準備学習（予習復習）の具体的な内容	講義毎に復習を行い理解度を高めること。 解剖・生理・運動学を復習すること。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	Crosslink理学療法学キット 神経障害理学療法学 II 神経筋障害：株式会社メディカルペディア
参考書	病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版：株式会社メディカルペディア
授業の留意点・備考	自主的な学習を心掛けること。

科目名	心大血管管理学療法						担当教員	山下 俊		
-----	-----------	--	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習					
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修						
担当教員の実務経験	急性期、亜急性期、術後症例を担当し、運動器・代謝・心大血管疾患を中心に検査・測定を行った経験を活かし、各疾患の検査・測定手技について講義・演習を行う。															
授業概要	身体障害者の数は高齢化とともに年々増加傾向にある。なかでも、心疾患を中心とした内部障害患者は聴覚・視覚障害、肢体不自由者が近年横ばいであるのに対し、急増している。 本講義内では、各分野における代表疾患を例とし、その捉え方について学んでいく。 また、心大血管疾患に対する理学療法を学ぶ。															
到達目標	循環器疾患を対象に理学療法を組み立てるための医学的知識とその理論的背景に基づいた患者評価を理解する。病態を把握するための臨床検査結果を理解し、その結果に即した理学療法評価を実施し、的確な運動処方を立案することができる。															

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	循環器の構造としくみ	心臓および血管の構造と機能を理解する。
2	循環器の構造としくみ	循環器における生理学的知識を理解する。
3	運動生理と運動処方	運動時の生体反応と運動処方について理解する。
4	運動生理と運動処方	運動時の呼吸代謝反応および運動強度について理解する。
5	全身状態の観察とバイタルサインの診方	主要なバイタルサインとその臨床的意義について理解する。
6	心電図の診かた	心電図の基礎を理解する。
7	不整脈と心電図の診かた	異常波形を読むポイントを理解する。
8	身体機能評価	身体機能評価の臨床的意義を理解し、評価方法と判定方法を実施し理解する。
9	症例検討	症例を掲示し、検査結果からアセスメントを実施する。
10	心不全と理学療法	疾患の病態および症候、障害を理解し医学的検査や治療を理解する。
11	心不全と理学療法	心不全に対する理学療法評価および理学療法を実施する。
12	虚血性心疾患と理学療法	疾患の病態および症候、障害を理解し医学的検査や治療を理解する。
13	虚血性心疾患と理学療法	虚血性心疾患に対する理学療法評価および理学療法を実施する。
14	弁疾患および大血管疾患と理学療法	疾患の病態および症候、障害を理解し医学的検査や治療を理解する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1.2年次に学習した解剖・運動生理・内科学を復習すること。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10 %) <input type="checkbox"/> レポート () % <input type="checkbox"/> 課題 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () %
教科書	Crosslink 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 : MEDICAL VIEW、医歯薬出版株式会社、病気がみえる 循環器 vol.2 第4版 : MEDIC MEDIA、リハビリテーション リスク管理 ハンドブック 改訂第3版 : MEDICAL VIEW
参考書	指導士資格認定試験準拠 心臓リハビリテーション必携 : 心臓リハビリテーション学会 循環器リハビリテーションの理論と技術 改訂第2版 : MEDICAL VIEW
授業の留意点・備考	理学療法評価および実技を行う機会があるため、服装は軽装で受講とする。軽装が必要時には、講義前に連絡を行う。

科目名	内部障害理学療法						担当教員	山下 俊		
-----	----------	--	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習							
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修								
担当教員の実務経験		急性期、亜急性期、術後症例を担当し、運動器・代謝・心大血管疾患を中心に検査・測定を行った経験を活かし、各疾患の検査・測定手技について講義・演習を行う。																
授業概要		身体障害者の数は高齢化とともに年々増加傾向にある。なかでも、心疾患を中心とした内部障害患者は聴覚・視覚障害、肢体不自由者が近年横ばいであるのに対し、急増している。また、重複障害として、内部障害を持つ患者も少なくない。 本講義内では、各分野における代表疾患を例とし、その捉え方について学んでいく。																
到達目標		内部障害を有する対象者への理学療法について、疾患別リハビリテーション枠組にとらわれず臨床現場で必ず対応に迫られる疾病を中心に、その疾患概念・病態・治療・理学療法について理解、実施することができる。																

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	内部障害理学療法 総論	内部障害の定義、種類、最近の傾向について学習する。
2	呼吸機能障害と理学療法①	呼吸器の構造と呼吸調節機能について学習する。
3	呼吸機能障害と理学療法②	呼吸機能評価の意義と方法について学習する。
4	呼吸機能障害と理学療法③	呼吸障害における理学療法手技について学習・演習する。
5	呼吸機能障害と理学療法④	COPDに対する理学療法評価および理学療法治療について学習する。
6	呼吸機能障害と理学療法⑤	症例検討を行い、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案を実施する。
7	喀痰等の吸引①	吸引の定義と目的を学習する。
8	喀痰等の吸引②	吸引の適応と禁忌を学習する。
9	喀痰等の吸引③	吸引の手順を把握し実施することができる。
10	喀痰等の吸引④	開放式吸引方法、閉鎖式吸引方法、口腔および鼻腔吸引を実施することができる。
11	喀痰等の吸引⑤	吸引実施前後のアセスメントを理解する。また、吸引における合併症やリスク管理について学習する。
12	代謝障害と理学療法①	糖尿病の症候および障害を理解し、運動療法を実施する。
13	代謝障害と理学療法②	身体活動の強さ（MET s）を理解し、運動強度と運動プログラムを学習する。
14	がんの理学療法	がんの概要および病態、理学療法評価および理学療法士による治療を学習する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1.2年次に学習した解剖・運動生理・内科学を復習すること。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（90%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（10%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input type="checkbox"/> 課題（%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）
教科書	Crosslink 理学療法テキスト 内部障害理学療法学：MEDICAL VIEW、医歯薬出版株式会社、病気がみえる 呼吸器 vol.4 第3版：MEDIC MEDIA、リハビリテーション リスク管理 ハンドブック 改訂第3版：MEDICAL VIEW
参考書	糖尿病の理学療法：MEDICAL VIEW、リハ実践テクニック 呼吸ケア：MEDICAL VIEW
授業の留意点・備考	理学療法評価および実技を行う機会があるため、服装は軽装で受講とする。軽装が必要時には、講義前に連絡を行う。

科目名	その他疾患理学療法					担当教員	山本 英夫		
-----	-----------	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習								
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修									
担当教員の実務経験	総合リハビリテーション病院での業務経験を活かして講義、演習を行う。																		
授業概要	脊髄損傷の病態や分類、症状、二次障害、合併症、機能障害などの基礎知識の復習から評価、障害に応じたリハビリテーション、予後まで系統的に学習し演習する。 小児疾患・がんリハについてもそれぞれの特徴に応じた理学療法について学習する。																		
到達目標	各種病態の基礎知識から評価、障害に応じたリハビリテーション、予後まで一連の理学療法について理解する。																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 脊髄損傷総論①	脊髄損傷を学習する上で必要な解剖生理を復習し、脊髄損傷の概要、分類（完全損傷、不全損傷、ブラウンセカール症候群、中心性頸髄損傷等）について学習する。
2	脊髄損傷総論② 障害	脊髄損傷の症状、呼吸障害、排尿排便障害、痙攣等、自律神経機能障害、循環障害等）、合併症（褥瘡、異所性骨化、拘縮）、心理的問題について学習する。
3	脊髄損傷の機能障害の評価	Frankelの分類、Zancolliの上肢機能分類、ASIAの神経学的評価について学習する。
4	脊髄損傷の理学療法①	急性期のリハビリテーションと合併症管理、機能残存レベル別の基本的な理学療法プログラムについて学習する。
5	脊髄損傷の理学療法②	運動療法（ROM訓練、筋力増強訓練、姿勢保持訓練など）について学習し、脊髄損傷患者に対する運動療法を演習する。
6	脊髄損傷の理学療法③	頸髄損傷の機能残存レベル別の起居動作（坐位保持、寝返り、起き上がり）ブッシュアップ、移乗動作について学習し、指導・介助方法とその動作を演習する。
7	脊髄損傷の理学療法④	頸髄損傷の機能残存レベル別の車椅子駆動、キャスター上げの指導・介助方法とその動作を演習し、脊髄損傷患者の社会復帰と環境設定を学習する。
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習）の具体的な内容	速やかに理解できるよう、疾患の概要とそれに関わる解剖学、生理学の基礎知識を予習して臨むこと。
成績評価	<input type="checkbox"/> 定期試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (10 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (30 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	脊髄損傷マニュアル（医学書院） その他は随時資料配布
参考書	プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）
授業の留意点・備考	疾患の病態、症状から適切な理学療法を選択するまでのつながりを理解すること。

科目名	その他疾患理学療法						担当教員	上田 恵理奈					
学科	理学療法学科		年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義	
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修			
担当教員の実務経験		小児における訪問リハビリテーションにおいて、小児リハに加え呼吸理学療法や気道クリアランスに特化し、小児疾患における様々な対応について講義演習を行うことができる。											
授業概要		人工呼吸に関する医療技術が進歩し、小児領域においても、継続した在宅人工呼吸管理や医療ケア児が増えている。ここでは慢性呼吸不全を有する小児疾患概念から小児呼吸理学療法について基礎的な考えを学ぶ。											
到達目標		小児の呼吸理学療法の基礎となる神経筋疾患の呼吸不全の特徴や呼吸機能評価～気道クリアランスについて説明できる。											
授業計画													
回	テーマ				授業内容								
1	熊本における小児在宅人工呼吸の実際				熊本における医療的ケア児の実際や療育・学校含め、障がい児が成長し障がい者となる過程において理学療法士としての関わりを学ぶ。								
2	NPPVとIPPVの違い、呼吸器を使用した生活について				実際の例や教科書（NPPVのすべて）を通じ呼吸器を使用した生活に触れ、障がいをもつて生まれ、生活するという事を考える機会をもつ。								
3	人工呼吸器について				人工呼吸器の目的や構造・設定について理解する。								
4	神経筋疾患の呼吸ケア				非侵襲的人工呼吸についてのグループ演習を通じ自ら学ぶ。								
5	小児呼吸器疾患に対する気道クリアランス				気道クリアランスの理論を理解する。								
6	グループ演習～発表				呼吸ケアについて理解して説明することができる。								
7	グループ演習～発表				呼吸ケアについて理解して説明することができる。								
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
準備学習（予習復習）の具体的な内容													
成績評価		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()											
教科書		JJNスペシャル NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）のすべて これから的人工呼吸：医学書院											
参考書													
授業の留意点・備考													

科目名	ADL					担当教員	佐藤 健・山下 俊		
-----	-----	--	--	--	--	------	-----------	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習							
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学					選択・必修	必修									
担当教員の実務経験		急性期から生活期において小児から高齢者に至る幅広い年代の症例を対象とした理学療法に従事し、さらに地域や行政から委託された指導の経験を活かして、実践に即した講義・演習を行う。																
授業概要		日常生活活動の概念を理解し、これまでに学んだ知識(評価学・運動療法学等)を踏まえながら症候・障害内容に応じた「活動制限」を捉え、動作上の特徴などを踏まえながら対象者のADL獲得及びQOL向上に向けた具体的な思考や介入方法について学習する。																
到達目標		ADLの概念・指導の考え方を理解し、必要な評価法の実施を図ることができる。また、症候・障害内容に応じた動作上の特徴を理解し、適切な介助・支援方法ならびに指導方法を選択し実施することができる。																

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	日常生活活動（ADL）の概念	ADLの定義、ICFと日常生活活動、基本的日常生活活動（BADL）、手段的日常生活活動（IADL）、生活の質（QOL）について学習する。
2	ADLの評価	ADL評価の目的、評価方法について学習する。
3	代表的なADL評価指標①	Barthel Index (BI) の概要、評価項目、採点方法について学習する。
4	代表的なADL評価指標②	functional independence measure (FIM) の概要、評価項目、採点方法について学習する。
5	代表的なADL評価指標③	症例情報を掲示し、実際にBIを用いてADL評価を行う。
6	基本的動作とセルフケア	起居動作（寝返り、起き上がり、座位）について学習し、演習を行う。また、安全な介助方法を理解する。
7	基本的動作とセルフケア	起居動作（立ち上がり、立位）について学習し、演習を行う。また、安全な介助方法を理解する。
8	基本的動作とセルフケア	移乗動作について学習し、演習を行う。また、安全な介助方法を理解する。
9	基本的動作とセルフケア	移動動作、歩行について学習し、演習を行う。また、安全な介助方法を理解する。
10	歩行補助具	歩行補助具である「つえ」、「歩行器」、「歩行者」の種類を理解し、目的や適合方法を理解する。
11	歩行補助具	様々な歩行補助具を用いて演習を行う。
12	車椅子・座位保持装置	車いすの基本構造や種類を理解し、利用者の残存能力に応じた車椅子の選び方を学習する。
13	日常生活用具、自助具	日常生活用具と自助具の要件を理解し、グループワークにて日常生活用具と自助具の用途を調べる。
14	住宅改修と家庭環境の整備	住環境整備・改修の必要性を理解し、住宅改修の流れを理解する。
15	理学療法と身体活動量	身体活動量について理解し、身体活動量の評価が行える。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	リハビリテーション支援機器	リハビリテーション支援機器の分類と移動補助具について学ぶ。
17	中枢神経障害患者へのADL指導①	脳卒中片麻痺患者における基本的動作におけるADL指導を学び演習する
18	中枢神経障害患者へのADL指導②	脳卒中片麻痺患者におけるSelf-careに対するADL指導を学び演習する
19	中枢神経障害患者へのADL指導③	脳卒中片麻痺患者における乗り物への乗降などのADL指導を学び演習する
20	運動器障害患者に対するADL指導①	松葉杖処方と荷重負荷設定を中心に下肢骨折患者のADL指導を学び演習する
21	運動器障害患者に対するADL指導②	人工関節全置換術後患者の疾患特性を踏まえてADL指導を学び演習する
22	運動器障害患者に対するADL指導③	関節リウマチ（RA）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
23	運動器障害患者に対するADL指導④	有痛性疾患患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
24	神経難病患者に対するADL指導①	パーキンソン病（PD）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
25	神経難病患者に対するADL指導②	筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
26	神経難病患者に対するADL指導③	筋ジストロフィー（MD）患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
27	神経難病患者に対するADL指導④	脳性麻痺（CP）患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
28	心・肺機能障害患者に対するADL指導①	循環器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する
29	心・肺機能障害患者に対するADL指導②	呼吸器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する
30	定期試験	
準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書を読んで予習しておいてください。また、授業で配る資料の復習をしてください。	
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（90%） <input type="checkbox"/> 実技試験（%） <input type="checkbox"/> 小テスト（%） <input type="checkbox"/> レポート（%） <input checked="" type="checkbox"/> 課題（10%） <input type="checkbox"/> 発表（%） <input type="checkbox"/> その他（）	
教科書	日常生活活動（ADL） 神陵文庫	
参考書	動作分析臨床活用講座 メジカルビュー社	
授業の留意点・備考	学習内容に対して自分なりの考えを持ち、能動的かつ積極的な学習姿勢で他者と分かち合いながら相互的に理解していくように努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。	

科目名	義肢装具学						担当教員	本田智裕/笹川友彦/栗野博子										
学科	理学療法学科		年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60								
区分	専門分野	教育内容		理学療法治療学				選択・必修	必修									
担当教員の実務経験	義肢装具士として採型・製作・適合に多くの臨床経験を活かして、役割や総合支援法の制度等について講義・演習を行う事が出来る。																	
授業概要	義肢装具の定義・歴史・目的・構造・素材等の基本的な知識とリハビリテーションにおける。位置付け、及び装具の適合判定について演習を取り入れて学習する。																	
到達目標	理学療法士として疾患・症状・状態等を理解して、適応する装具を選択できるようにする。装着後のチェックアウトが出来るようになる。																	
授業計画																		
回	テーマ				授業内容													
1	義肢総論：切断と義肢の基礎知識				基本的構成要素・名称・種類・適合・アライメントを理解する。													
2	義足総論				分類・構造と各種構成部品の特徴を理解する。													
3	義足各論：足部義足・サイム義足				各種義足の特徴・構成部品を理解する。													
4	義肢各論：下腿義足				各種義足の特徴・構成部品を理解する。													
5	義足各論：大腿義足・膝義足				各種義足の特徴・構成部品を理解する。													
6	義手総論				分類・構造と各種構成部品の特徴を理解する。													
7	演習：足底装具の採型				足底装具の採型体験													
8	演習：短下肢装具の製作見学				プラスチック製短下肢装具の製作見学													
9	装具総論：装具の基礎知識				基本的構成要素・名称・種類・適応・役割を理解する。													
10	装具総論：上肢装具				基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。													
11	装具各論：頸部及び体幹装具				基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。													
12	装具各論：下肢装具				下肢装具を構成する各関節の継手や足部、基本的な部品の名称・構造・機能を理解する。													
13	装具各論：下肢装具				下肢装具を構成する各関節の継手や足部、基本的な部品の名称・構造・機能を理解する													
14	装具各論：特殊装具				対麻痺用装具の種類や機能と小児疾患の装具の種類や機能について理解する。													
15	まとめ																	

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	義肢装具の基礎知識	歩行のバイオメカニクスと義士装具のバイオメカニクスを理解する。
17	演習：切断の総論	切断のリハビリテーションについて、断端後の症状や対応、断端管理について理解する。
18	切断の総論	切断のリハビリテーションについて、義肢への展開と注意点について理解する。
19	大腿義足	大腿義足の適合・アライメントチェック・異常歩行との関連を理解する。
20	演習：大腿義足	症例課題：異常歩行から考えられる義足のチェックアウトを検討し理解を深める。
21	下腿義足	下腿義足の適合・アライメントチェック・異常歩行との関連を理解する。
22	股義足、その他	股義足・膝義足・下腿義足・足部の義足の適合・アライメントチェック・異常歩行との関連を理解する。義足でのADL動作の基本的考え方を理解する。
23	下肢装具（中枢疾患）	脳卒中片麻痺患者の装具を用いたリハビリテーションの展開を理解する。
24	演習：長下肢装具	疾患の症状と長下肢装具の適合・調整を演習を通じ理解する。また、患者への指導やADL動作指導について理解する。
25	演習：短下肢装具	疾患の症状と短下肢装具の適合・調整を演習を通じ理解する。
26	上肢装具	整形疾患における上肢装具の適応とリハビリテーション時の注意点を理解する。
27	演習：頸部・体幹装具	整形疾患における頸部・体幹装具の適応とリハビリテーション時の注意点を理解する。
28	演習：下肢装具（整形疾患）	整形疾患における下肢装具やサポーター、靴型装具・足底板などの適応とリハビリテーション時の注意点を理解する。
29	演習：その他補装具	小児や変形疾患などに用いられる特殊装具やその他補装具の車いす調整・シーティングなどについて演習を通じ理解する。
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習（予習復習）の具体的な内容	履修内容に関連した範囲は必ず学習する事。（教科書の予習・復習する。）	
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()	
教科書	・PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学（羊土社）	
参考書	教科書以外の内容は適宜資料を配布	
授業の留意点・備考	配布資料は必ず確認・理解して、分からぬ部分は積極的に質問して解決すること。	

科目名	理学療法特論演習 I					担当教員	岩北 耕三		
-----	------------	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義								
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修									
担当教員の実務経験	医療・保健・福祉における様々な分野・領域で多様な疾患を経験し、急性期から維持期までの臨床経験を持つ。																		
授業概要	理学療法士学生に必要な基本的情動・認知・精神運動の各領域を演習・実技を通して習得し、評価実習に必要な資質を身につける。他学年との交流にて3学年の課題についてイメージできることで学習の目標設定を明確にし活動できるように取り組む。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士学生に必要な心構えを身につける。 ・評価実習に必要な情意領域、認知領域、精神運動領域を身につける。 																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の概要と授業進行、評価方法について説明する。
2	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
3	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
4	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
5	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
6	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
7	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
8	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
9	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
10	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
11	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
12	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
13	理学療法専門領域	理学療法評価・治療の基礎・応用
14	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書等を用いて事前に確認し、受講後は振り返りを必ず実施すること。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	特になし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学（金原出版） ・ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）
授業の留意点・備考	常に問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互的理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。必要に応じて現場に即した身だしなみ（実習靴及び実習着着用、整髪、貴金属類の装着不可等）で受講すること。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
16	専門分野 [14]	膝関節の障害（変形性関節症含む）
17	専門分野 [15]	大腿骨における骨折
18	専門分野 [16]	肩関節、その他上肢機能における障害
19	専門分野 [17]	整形外科的検査法
20	専門分野 [18]	脳血管障害（高次脳機能障害含む）
21	模擬試験	これまでの専門分野のまとめおよび習得内容の確認
22	専門分野 [20]	基本的動作訓練
23	専門分野 [21]	Pusher現象・肩手症候群
24	専門分野 [22]	パーキンソン病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症
25	専門分野 [23]	多発性筋炎、筋ジストロフィー
26	専門分野 [24]	上肢および下肢装具
27	専門分野 [25]	ADLの概念、ADLの評価
28	専門分野 [26]	FIM, Barthel Index, ICF
29	専門分野 [27]	インフォームドコンセント、研究法、理学療法士に関連する法規
30	模擬試験	これまでの専門分野のまとめおよび習得内容の確認
準備学習(予習復習)の具体的な内容		日々の国家試験過去問やリハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。
成績評価		<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (100 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書		・クエスチョンバンク 理学療法士国家試験問題解説 2023専門問題 ・TRY過去問 専門分野
参考書		その他、専門分野に関連する教科書
授業の留意点・備考		グループ（活動班）による学習を通して、国家試験合格率の向上に努める。

科目名	生活環境学					担当教員	緒方 茂		
-----	-------	--	--	--	--	------	------	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習		
区分	基礎分野	教育内容	地域理学療法学					選択・必修	必修				
担当教員の実務経験		介護老人保健施設や訪問リハビリテーションにおける臨床経験を基に、生活環境が地域の障がい者や高齢者に与える影響について講義・演習を行う事が出来る											
授業概要		障がい者や高齢者の生活環境（日常生活）の中にどのような問題があるのか、理学療法士として、人的環境、社会的環境、物理的環境の多面的な側面から考え、考察を行なっていく											
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境上の評価項目を挙げることができる。 ・生活環境上の問題点を挙げることができる。 ・生活環境上の問題点に対する解決方法を考えることができる。 											

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバスを用いて講義の流れや進め方を説明し、生活環境学の概要を一通り理解する。
2	生活環境学の概念①	生活環境の定義を確認し、身近な自分自身の生活環境を考えてもらうために、自分の家の間取りを書いてもらう。
3	生活環境学の概念②	家屋の間取りを参考に簡単な発表を行い、様々な生活環境があることを理解する。また生活環境の種類と分類を学ぶ。
4	生活環境学の概念③	障がい者や高齢者と生活環境の影響について学ぶ。
5	生活環境学の環境デザイン	バリアフリーデザインとユニバーサルデザインから環境へのアプローチを学ぶ。
6	生活環境学の評価②	生活環境の評価の流れを確認し学ぶ。実際に生活環境の評価を身近なもので行い、危険因子などを学ぶ。
7	生活環境と手指衛生①	感染症の基礎的な知識を学び手指衛生につなげていく。
8	生活環境と手指衛生②	手指衛生の臨床的重要性を学び、実際の手指衛生の演習を通じてそれを身につけていく。
9	生活環境学と福祉用具①	福祉用具の定義からその種類と分類を学び理解を深める。
10	生活環境学と福祉用具②	福祉用具の一つで、臨床では頻繁に使用する車椅子の名称や使い方を学ぶ習得する。
11	生活環境学と福祉用具①	福祉用具の一つで、臨床では頻繁に使用する歩行補助用具(杖や歩行器など)の名称や使い方を学ぶ習得する。
12	公共環境車椅子体験①	学校周辺で車椅子を使用し、スロープの勾配や段差を体験する。
13	公共環境車椅子体験②	学校周辺で車椅子を使用し、スロープの勾配や段差を体験する。
14	公共環境車椅子体験③	これらの体験の発表用資料を作成する。
15	公共環境車椅子体験④	各班において発表を行い公共環境を共有し、セラピストの環境を見る視点を学ぶ。

準備学習（予習復習）の具体的な内容	予習は求めないが、復習は講義が終わった後教科書やノート配布資料等で必ず確認を行なう。
成績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10 %) <input type="checkbox"/> 課題 () % <input type="checkbox"/> 発表 (10 %) <input type="checkbox"/> その他 ()
教科書	シンプル理学療法学 作業療法学シリーズ「生活環境学テキスト 改訂第2版」
参考書	配布資料
授業の留意点・備考	不明な点はそのままにせず積極的に質問して貴重な講義を有効活用すること。また、グループワークを行う場合は、ディスカッション等に積極的に参加すること。

科目名	地域理学療法学					担当教員	平尾 浩志		
-----	---------	--	--	--	--	------	-------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義						
区分	専門分野	教育内容		地域理学療法学				選択・必修	必修								
担当教員の実務経験		高齢者施設のリハ業務や介護保険計画で地域行政と係わった経験を活かし、地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割や制度・今後の展望について講義・演習を行うことができる。															
授業概要		地域リハビリテーションの背景や現状を理解し、地域における理学療法士としての専門的な関わりを学習する。また、介護保険制度や地域包括ケアシステムに関する知識も深め、今後の理学療法士の在り方を学ぶ。高齢者施設の演習やボランティアに参加して地域貢献活動を学ぶ															
到達目標		1. 地域リハビリテーションに関わる専門職としての知識の習得のみならず、地域で暮らす障害者や高齢者の具体的な支援方法を説明できる。2. 地域リハビリテーションの必要性、関連職種の役割や連携について説明できる。3. 介護保険制度の位置づけを説明できる。訪問リハ・デイサービス・デイケアの目的、対象、具体的な内容について説明できる。4. 介護老人保健施設・特別養護老人ホームの目的、対象、具体的な内容について説明できる。															

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	地域リハビリテーションの概念	リハビリテーションの定義。地域リハビリテーションとは。地域理学療法とは
2	地域リハビリテーション活動	地域リハビリテーション活動とその背景にあるもの
3	制度の変遷	地域リハビリテーションの歴史・背景
4	公的介護保険制度における地域理学療法Ⅰ	リハ等通所系サービスにおける理学療法の現状
5	公的介護保険制度における地域理学療法Ⅱ	介護老人保健施設等の入所サービスにおける理学療法の現状
6	公的介護保険制度における地域理学療法Ⅲ	訪問リハビリテーションにおける理学療法の現状
7	公的介護保険制度における地域理学療法Ⅳ	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割
8	地域リハビリテーション関連職種	専門職連携の重要性
9	生活課題に対する理学療法Ⅰ	健常者同士でADL介助を行い正しい介助方法を学ぶⅠ
10	生活課題に対する理学療法Ⅱ	健常者同士でADL介助を行い正しい介助方法を学ぶⅡ
11	症例演習Ⅰ	実際の食事動作に関する理解と理学療法
12	症例演習Ⅱ	実際の排泄動作に関する理解と理学療法
13	症例演習Ⅲ	実際の入浴動作に関する理解と理学療法
14	症例演習Ⅳ	実際の行為動作に関する理解と理学療法
15	まとめ	全体のまとめと習熟度の確認

授業計画

回	テーマ	授業内容
16	オリエンテーション・前期の復習	前期に得た知識を踏まえ、後期の授業説明。次回からのグループワークオリエンテーション
17	加齢に伴う身体的機能の変化	高齢者特有の病態について学ぶ
18	高齢者向け体操立案案演習Ⅰ	グループワーク 要介護高齢者に合った健康体操を計画する
19	高齢者向け体操立案案演習Ⅱ	グループワーク 要介護高齢者に合った健康体操を計画立案
20	高齢者向け体操立案案演習Ⅲ	グループワーク 要介護高齢者に合った健康体操の発表
21	車いすやベッドの簡易的修理Ⅰ	日常生活で使用すADL補助具の簡単な修理を演習と通して学ぶ
22	車いすやベッドの簡易的修理Ⅱ	日常生活で使用すADL補助具の簡単な修理を演習と通して学ぶ
23	要介護高齢者に多いカテーテルチューブ	生活に必要な経管栄養や排尿に関するカテーテルチューブの重要性を学ぶ
24	高齢者の感染対策Ⅰ	細菌性とウイルス性の感染について学ぶ
25	高齢者の感染対策Ⅱ	実際の高齢者感染症対策について学ぶ
26	症例演習Ⅴ	実際の食事動作に関する理解と理学療法の見解
27	症例演習Ⅵ	実際の排泄動作に関する理解と理学療法の見解
28	症例演習Ⅶ	実際の入浴動作に関する理解と理学療法の見解
29	症例演習Ⅷ	実際の行為動作に関する理解と理学療法の見解
30	まとめ	全体のまとめと習熟度の確認
準備学習（予習復習）の具体的な内容	教科書を読んでおく、講義ノートを復習復習する。インターネット等のメディアを通して最新の介護保険事情を調べておくこと。	
成績評価	<input type="checkbox"/> 定期試験 () <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 小テスト () <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (20 %) <input type="checkbox"/> 発表 () <input type="checkbox"/> その他 ()	
教科書	地域リハビリテーション学テキスト 改訂第3版：南江堂	
参考書	講師からの配布資料	
授業の留意点・備考	高齢者支援制度は日々変化している。様々な情報に耳を傾けるよう意識してほしい。	

科目名	理学療法見学実習						担当教員	臨床実習指導者 理学療法学科教員		
-----	----------	--	--	--	--	--	------	---------------------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	45	授業形態	実習								
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修									
担当教員の実務経験	理学療法士の免許を有し、見学実習の指導を行う資格がある者。																		
授業概要	当校における1年次の実習は、早期臨床体験実習と同じ位置づけで行い、養成校入学時の漠然とした理学療法士になるという目標から、具体的な理学療法士像を構築し明確な目標を持つことを目指す。																		
到達目標	将来理学療法士となるまでの資質の向上を図ることを目的としている。資質とは、認知・情意・精神運動の3つの領域における適正と考えている。ただし、今回の実習においては、認知領域および情意領域の向上を図ることとする。																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	臨床理学療法の見学	令和4年8月29日（月）～9月3日（土）までの1週間
2		令和4年9月5日（月）～9月10日（土）までの1週間
3		上記期間のいずれかかつ、各々の臨床実習施設で実施する
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習）の具体的な内容	
-------------------	--

成績評価	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> 課題 (100 %) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
------	--

教科書	
-----	--

参考書	
-----	--

授業の留意点・備考	
-----------	--

科目名	評価実習					担当教員	臨床実習指導者		
-----	------	--	--	--	--	------	---------	--	--

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	4	時数	180	授業形態	実習								
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修									
担当教員の実務経験	臨床現場での5年以上の実務経験																		
授業概要	各種理学療法適応疾患における実際を理解し、認知領域・情意領域・精神運動領域それぞれの向上を図り、長期実習並びに卒業後の実務へと繋げる。																		
到達目標	各種疾患の病態を理解し必要な理学療法評価を行うことができる。また理学療法の対象となる問題点を抽出し、目標の設定や対象に適切な理学療法プログラムの立案ができる。																		

授業計画

回	テーマ	授業内容
1		評価実習：令和5年1月30日（月）～令和5年2月25日（土）
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習）の具体的な内容	解剖学、運動学、生理学はもとより、疾患の基礎知識や検査測定の意義、目的の復習を行う。また、基本的な検査測定手技の練習を十分に行うこと。
成績評価	<input type="checkbox"/> 定期試験（ %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 課題（100 %） <input type="checkbox"/> 発表（ %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（総合的に判断する）
教科書	必要なものを準備すること。
参考書	必要なものを準備すること。
授業の留意点・備考	・実習に関わる全ての方々に感謝し相手の立場にたって丁寧に接すること。 ・積極的学習ならびに実習に取り組むこと。対象者に感謝の気持ちを持って接すること。

科目名	長期実習						担当教員	臨床実習指導者 理学療法学科教員				
学科	理学療法学科	年次	4	開講期		単位数	18	時数	810	授業形態	実習	
区分	専門分野	教育内容	臨床実習					選択・必修	必修			
担当教員の実務経験	臨床実習指導者は臨床経験3年以上、理学療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している											
授業概要	臨床実習指導者の指導のもと、評価から治療および記録・報告などの一連の理学療法業務を経験し修得するとともに、包括的リハビリテーションにおける理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに、今後進むべき方向性や研究テーマを考える											
到達目標	臨床実習指導者の指導を受けながら、現場のスケジュールに従って行動し、理学療法業務全般を経験する。 臨床の現場で対象者の評価、治療計画立案、具体的治療を実践する。 対象者から得られた情報など必要に応じて記録・報告する。											
授業計画												
回	テーマ			授業内容								
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7				<p style="text-align: center;">【第1期臨床実習】 令和4年 5月9日（月）～7月16日（土）</p>								
8				<p style="text-align: center;">【第2期 臨床実習】 令和4年 7月25日（月）～9月17日（土）</p>								
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
do												
成績評価	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> 課題 (%) <input type="checkbox"/> 発表 (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他(OSCE, 評価表, ポートフォリオ等から) <small>総合的に判断</small>											
教科書												
参考書												
授業の留意点・備考												